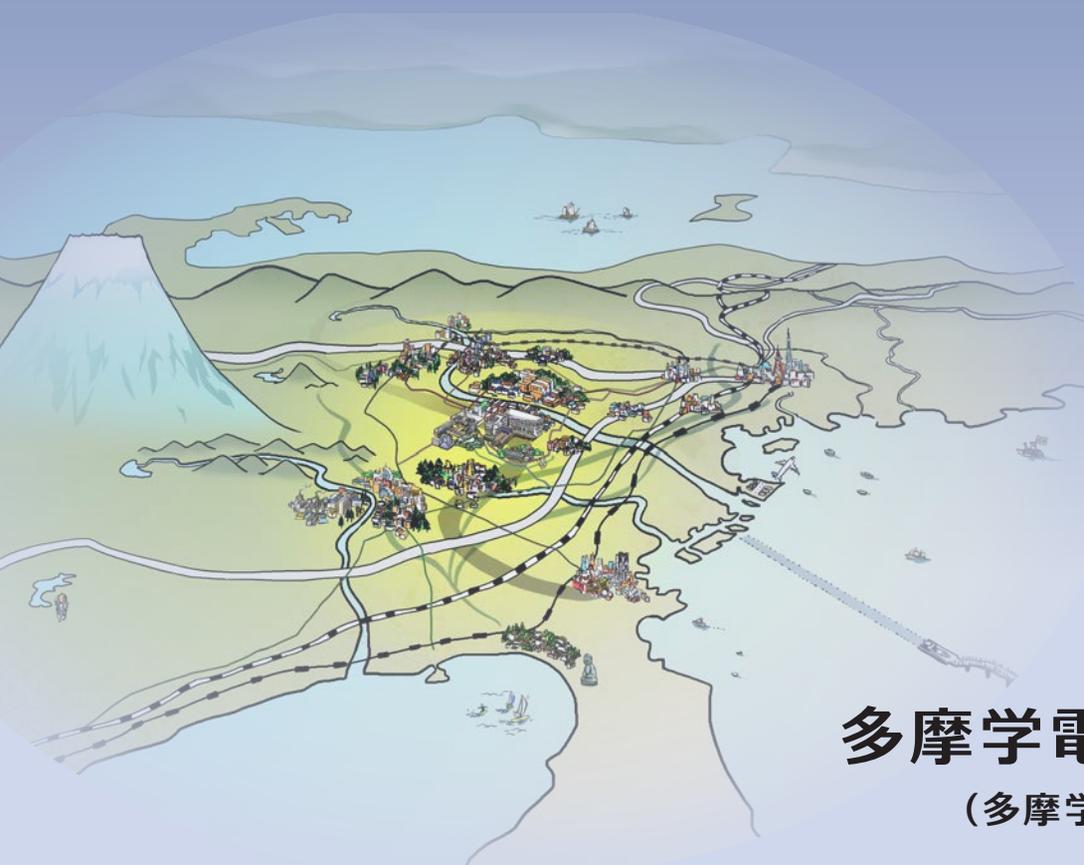


女性のワークライフバランスの 阻害要因に関する研究

多摩大学総合研究所



多摩学電子新書 vol.5
(多摩学電書)

平成23年度川崎市男女共同参画センター協働事業

事業名

「女性のワークライフバランスの
阻害要因に関する研究」

報告書

多摩大学総合研究所

2012年3月

目次

1. はじめに	- 1 -
1-1. 目的	- 1 -
1-2. 研究の枠組み	- 1 -
1-3. 本報告書の構成	- 1 -
2. 日本のワークライフバランスの現状	- 2 -
2-1. ワークライフバランスの概念	- 2 -
2-2. 日本におけるワークライフバランス施策の取り組み	- 3 -
2-3. 本研究で考えるワークライフバランスとは	- 5 -
3. 調査概要	- 7 -
3-1. 「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査の概要	- 7 -
3-2. インタビュー調査の概要	- 8 -
4. アンケート調査二次分析結果	- 11 -
4-1. 分析方針	- 11 -
4-2. 分析結果	- 12 -
(1) 男女の地位の平等に対する感じ方	- 12 -
(2) 現在の生活に対する満足度	- 15 -
(3) 生活における優先度の希望と現状	- 16 -
(4) 生活時間に関する満足度	- 17 -
(5) 女性の就労、夫婦・家庭に関する価値観	- 19 -
5. インタビュー調査結果	- 23 -
5-1. 分析方針	- 23 -
5-2. 事例分析	- 23 -
(1) 女性フルタイム家庭A	- 23 -
(2) 女性フルタイム家庭B	- 28 -
(3) 女性非正規雇用家庭C	- 31 -
(4) 女性専業主婦家庭D	- 34 -
5-3. インタビュー調査まとめ	- 35 -
6. まとめ	- 37 -
執筆者紹介	- 41 -

1. はじめに

1-1. 目的

ワークライフバランスとは「仕事と生活の調和」とも言われ、それが実現した社会は「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」である（2011（平成23）年版『かわさきの男女共同参画データブック』より）。

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に主体的に参加でき、等しく利益を享受し、かつ共に責任を担う、「男女共同参画社会」の実現には、このワークライフバランスが不可欠であるが、特に働く女性にとってその実現は難しい。

本研究では、「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査結果を用い、生活時間配分の実態や、生活における優先度の希望と現状の一致度、男女の地位の平等に関する意識、家庭や夫婦関係の在り方に関する価値観などを中心に分析することで、女性のワークライフバランスの実態を把握し、それを阻害する要因を導出する。さらに分析の結果で見えてきた注目すべき世代や、ある一定の働き方をする層について、インタビュー調査を行うことで、より詳細な考察を行う。最終的には、ワークライフバランス実現への提言を行う。

1-2. 研究の枠組み

日本におけるワークライフバランス研究は、様々な分野において展開されているが、その多くが、ワークライフバランスが実現していない実態と行政や企業の取り組みの不備を指摘し、ワークライフバランス実現の効用をうたうことで、新しい政策や制度、その導入方法、評価手法を提案するというものである。

このような蓄積が、ワークライフバランスの認知と実現にある程度寄与としたといえるが、一方で、「なぜワークライフバランスが実現できないのか」という阻害要因についての詳細な分析をもって、個人レベル（市民ひとりひとりの視点）で、どのような解決策があるかについての提言はまだ少ない。

そこで、本研究では、男女共同参画というテーマに基づき、ワークライフバランスの分析単位と解決策のレベルを、もっともミクロレベルの家庭と夫婦関係に絞り込み、「家庭内からのワークライフバランス」という枠組みで研究を進めるとともに、ワークライフバランス実現の方向性を示す。

1-3. 本報告書の構成

第2章において、ワークライフバランスの歴史的経緯や定義、日本における取り組みの現状について概観する。第3章では、本研究で使用した「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査と、独自に実施したインタビュー調査の概要をまとめる。第4章ではアンケート調査の二次分析の結果、第5章ではインタビュー調査の結果を記し、女性のワークライフバランスの阻害要因について考察する。第6章では本研究のまとめと、男女共同参画に向けたワークライフバランス実現への提言を行う。

2. 日本のワークライフバランスの現状

2-1. ワークライフバランスの概念

ワークライフバランスにつながる取り組みは、1980年代後半、世界に先駆けて米国で始まったと言われている。その米国においても、「ワークライフバランス」という言葉が用いられるようになったのは21世紀に入ってからであり、比較的新しい概念といえる。

日本では、政府の白書において「ワーク・ライフ・バランス」という言葉がはじめて使われたのは2003（平成15）年版『厚生労働白書』である。当時は「家庭等の個人生活とのバランスのとれた働き方（ワーク・ライフ・バランス）」という表現が用いられていた。その後、2006年（平成18年度）版『少子化社会白書』においてはじめて「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という用語が登場し、これが定着した。

ワークライフバランスは国によって異なる経緯で取り組みが始まり、施策の中身はほぼ同じあっても、異なる文脈のなかで議論される場合が多い。欧州では、企業で働く従業員の生活の質を高めるという意味で「労働者の当然の権利」としての意味が強い。個人の生活や私的な領域への政府の介入を好まない社会である米国では、民間における自発的な企業努力としてワークライフバランスの取り組みが進められてきた経緯もあり、「生産性向上を図るための企業戦略」として語られることが多い。そして、少子化の進行により将来の労働力不足が懸念される日本では、少子化対策の一環として、政府による福祉政策ないし労働政策の文脈で語られることがほとんどである。

このような理由から、ワークライフバランスの定義については専門家の間でも一律のものがないと言われている。以下に、英国の貿易産業省による定義、日本の各種文献における定義を記す。

- 英国貿易産業省（『ビジネス・レーバー・トレンド』2006年、p.2）
年齢、人種、性別にかかわらず、誰もが仕事とそれ以外の責任、欲求とをうまく調和させられるような生活リズムを見つけられるように、就業形態を調和すること。
- 「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告（平成19年7月 男女共同参画会議 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会）
老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態。
- 「子供と家族を応援する日本」重点戦略検討会議各分科会における「議論の整理」及びこれを踏まえた「重点戦略策定に向けての基本的考え方」について（中間報告）（平成19年6月「子供と家族を応援する日本」重点戦略検討会議）
個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめとする家族形成のほか、介護やキャリア形成、地域活動への参加等、個人や多様なライフスタイルの家族がライフステージに応じた希望を実現できるようにすること。
- 「労働市場改革専門調査会第一次報告」（平成19年4月 経済財政諮問会議労働市場改革専

門調査会)

多様な働き方が確保されることによって、個人のライフスタイルやライフサイクルに合わせた働き方の選択が可能となり、性や年齢にかかわらず仕事と生活との調和を図ることができるようになる。男性も育児・介護・家事や地域活動、さらには自己啓発のための時間を確保できるようになり、女性については、仕事と結婚・出産・育児との両立が可能になる。

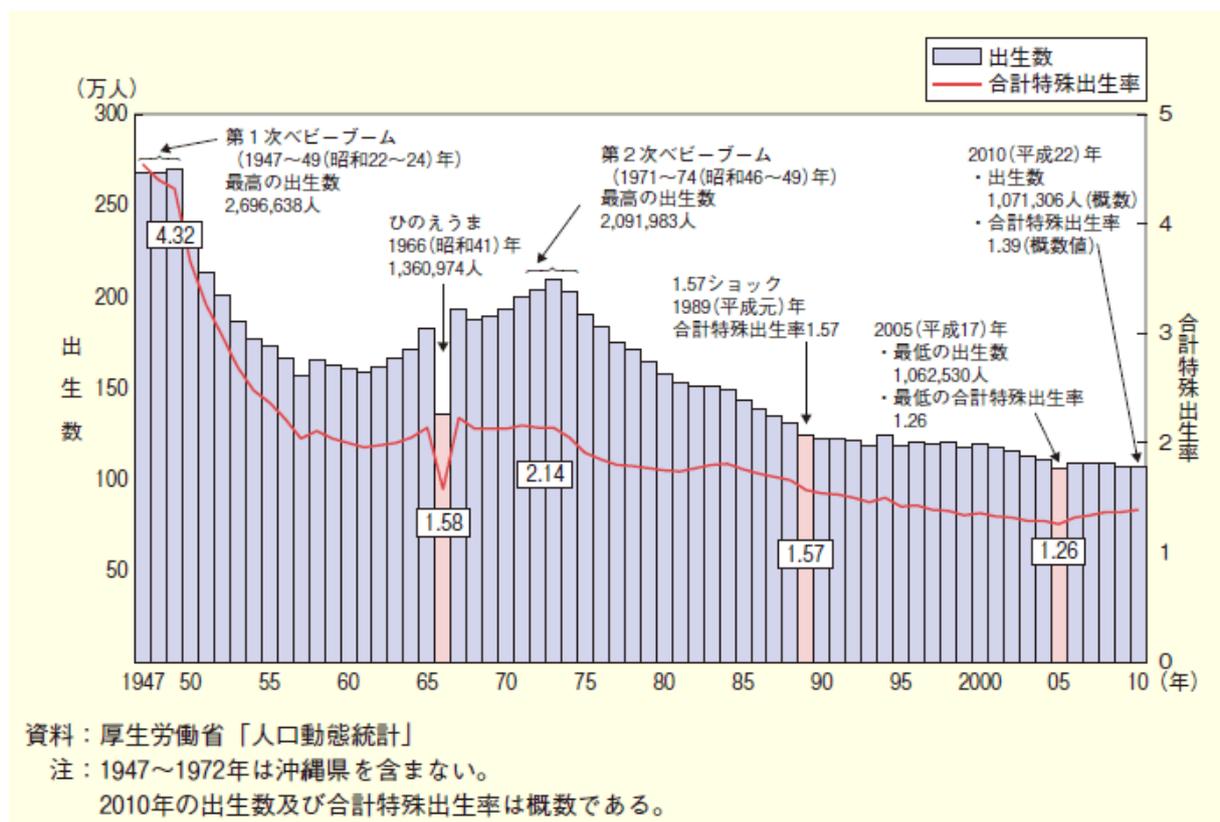
- 「男性も育児参加できるワーク・ライフ・バランス企業へーこれからの時代の企業経営ー」(平成18年10月 厚生労働省 男性が育児参加できるワーク・ライフ・バランス推進協議会)
働く人が仕事上の責任を果たそうとすると、仕事以外の生活でやりたいことや、やらなければならないことに取り組みなくなるのではなく、両者を実現できる状態のこと。

2-2. 日本におけるワークライフバランス施策の取り組み

日本におけるワークライフバランス施策は、少子化と男女共同参画の関連問題として語られてきた。出発点は、1990年のいわゆる「1.57ショック」にある。1986年の男女雇用機会均等法の施行から4年たったこの年、合計特殊出生率が過去の最低基準を下回り、1.57となった。丙午にあたる前年1989年の値(1.58)を下回ったことから、大きなショックとして社会に受け止められた。(図表2-1参照)

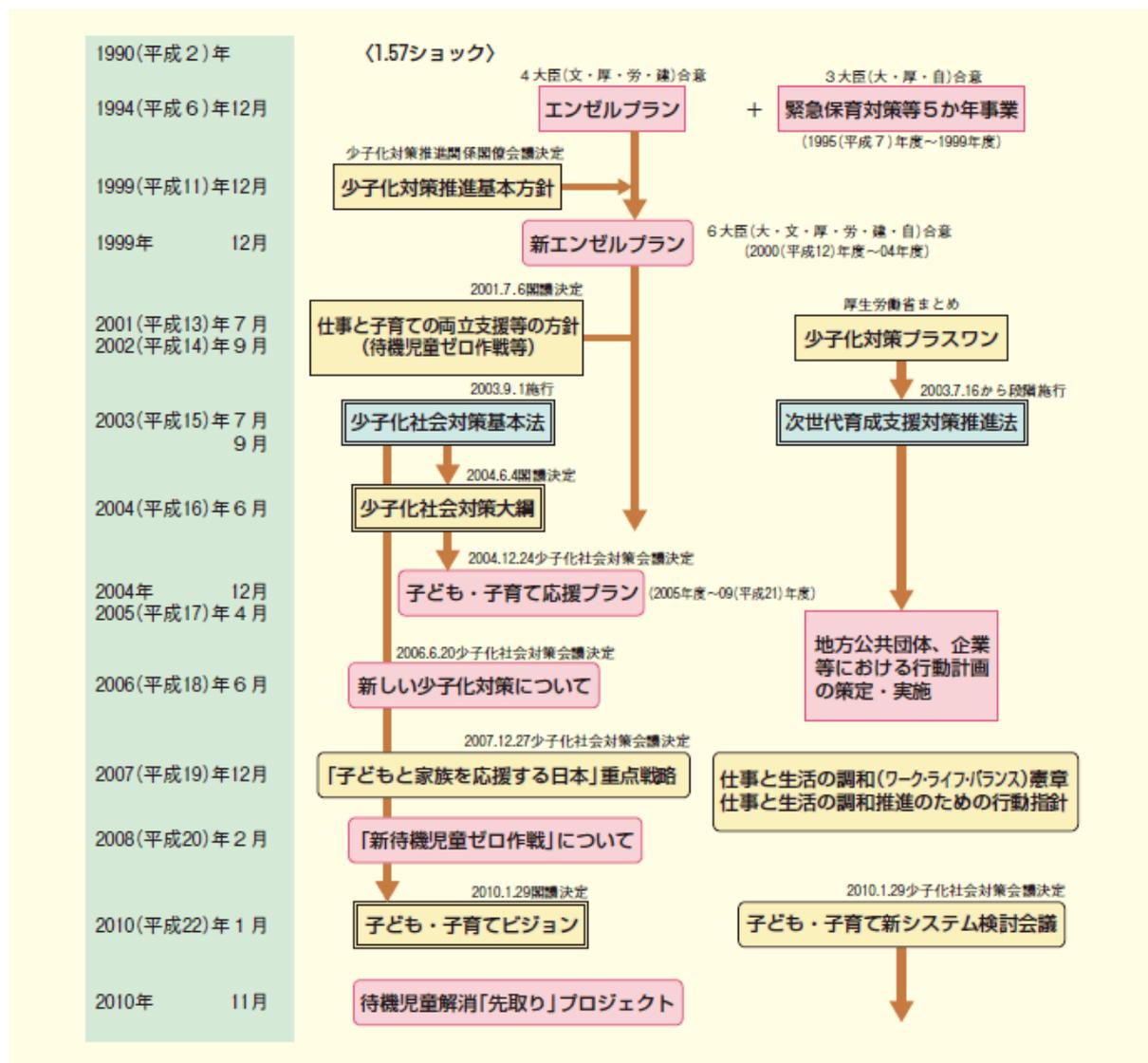
さらに2005(平成17)年には過去最低である1.26まで落ち込んだ。2010年は概数値で1.39となっているが、欧米諸国と比較するとなお低い水準にとどまっている。

図表2-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移(『平成23年版 子ども・子育て白書』 第1-2-1図)



国は高齢化の進展ともあいまって少子化を大きな問題と認識し、1994年には「エンゼルプラン」を策定し、緊急保育対策等五か年事業を開始した。その後の日本における少子化施策の経緯は図表 2-2 のとおりである。

図表 2-2 少子化対策の経緯（『平成 23 年版 子ども・子育て白書』 第 1-1-1 図）

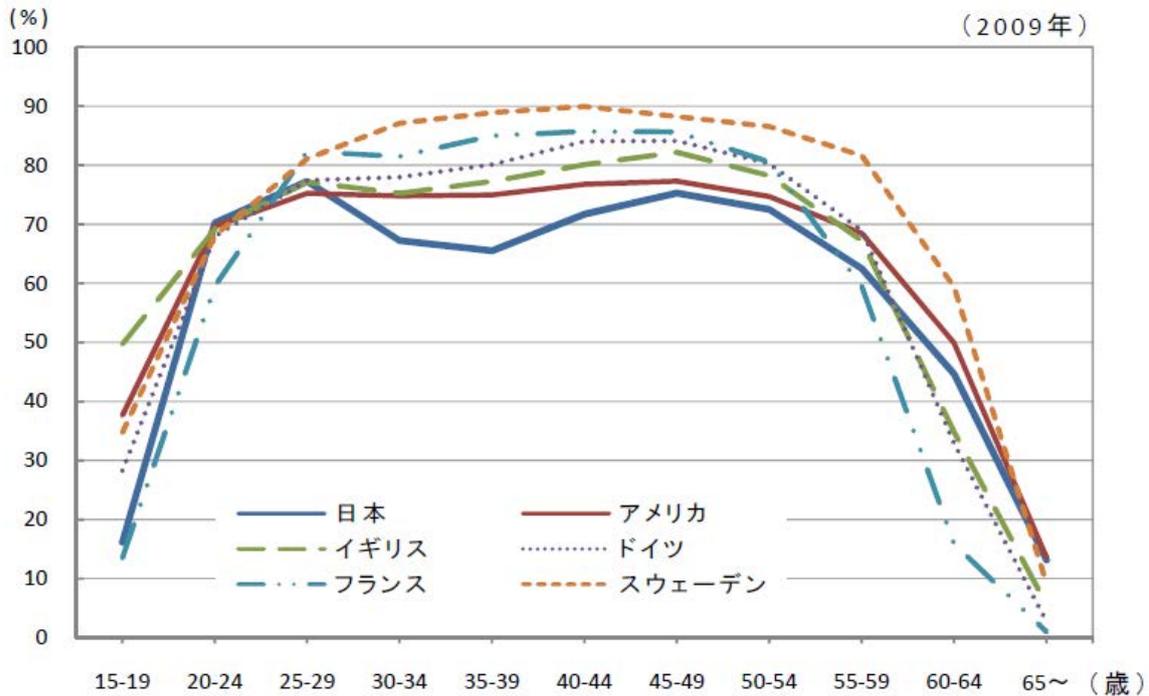


また日本においては、女性のM字型就業構造が問題視されている。それは、日本の女性の年齢階層別労働力率が、20歳代後半と40歳代後半をピークとし、30歳代を谷間とするM字型を描く構造である（図表 2-3 参照）。結婚・出産・育児等のために労働市場からいったん退出し、その後育児が落ち着いた後に再び労働市場に復帰するという女性労働者の就労行動の特徴が、M字カーブに反映されている。これは少子化問題の解決ならびに男女共同参画社会の実現がほど遠い現実のあらわれの一つといえよう。

なお日本や川崎市の男女共同参画の取り組みの経緯・詳細については、『2011(平成 23)年版 かわさ

きの男女共同参画データブック』(p.44～45)を参照されたい。

図表 2-3 年齢階級別女性労働力率 (2009 年) (『データブック国際労働比較 2011』 2-5 図)



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-11表 性別・年齢階級別人口・労働力人口・労働力率」(p.67)を参照。

以上、日本におけるワークライフバランス施策の経緯と現状を概観した。今後取り組むべき課題については、『平成 23 年版 子ども・子育て白書』(内閣府)の第 4 章「男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ (ワーク・ライフ・バランスの実現)」や、『仕事と生活の調和の新合意について (平成 22 年)』(仕事と生活の調和推進官民トップ会議)の「行動指針」において、さまざまな角度から提言されている。

2-3. 本研究で考えるワークライフバランスとは

「ワークライフバランスの取れた状態」とは、一体どのような状態であろうか。「2-1. ワークライフバランスの概念」でまとめたように、ワークライフバランスについては厳密な定義はないものの、いずれもライフとワークのバランスを取ることの大切さを強調している。しかし、その具体的な中身については言及していない。なぜなら、そのバランスの理想は個人によって異なるものであり、また同じ個人であっても、ライフステージにおいて望ましいバランスは変化しうるものだからである。

本研究においても、誰にでも一律にあてはまるワークライフバランスというものはないという前提のもと、一人ひとりが、その人生のときどきにおいて、柔軟に望ましいバランスを取ることができることを、ワークライフバランスの実現と考える。

またワークライフバランスの実現を果たすためには、政府や企業によるマクロレベルの仕組みのさらなる改善が求められる。しかし本研究では、個人や、家庭・夫婦関係という、よりマイクロレベルに焦点を当て、マクロレベルでの改善を待たずしても可能と思われる「家庭内からのワークライフバラ

ンス」という視点で提言を行うことを目指す。

*本章の執筆にあたっては、以下の文献、資料等を参考とした。

荒金雅子・小崎恭宏・西村智編著, 2007, 『ワークライフバランス入門』 ミネルヴァ書房.

川崎市・川崎市男女共同参画センター, 2011, 『2011(平成 23)年版 かわさきの男女共同参画データブック』.

仕事と生活の調和推進官民トップ会議, 2011, 『仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の新合意について』.

独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2011, 『データブック国際労働比較 2011』.

内閣府 仕事と生活の調和推進室 ホームページ (<http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>)

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）, 2006, 『少子化社会対策に関する先進的取組事例研究報告書（平成 18 年 3 月）』.

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）, 2010, 『平成 23 年版 子ども・子育て白書』.

樋口美雄・府川哲夫編, 2011, 『ワーク・ライフ・バランスと家族形成 少子社会を変える働き方』 東京大学出版会.

山口一男, 2009, 『ワークライフバランス 実証と政策提言』 日本経済新聞出版社.

3. 調査概要

本章では、二次分析を実施した「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査および、独自で実施したインタビュー調査の概要を記す。

3-1. 「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査の概要

以下に、調査の概要を『2011（平成 23）年版 かわさきの男女共同参画データブック』に記載されている内容に基づきまとめる。

（1）調査名

「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査

（2）調査目的

旧版『かわさきの男女共同参画データブック』（2006年3月）の発行から5年が経過し、その間に「第2期 川崎市男女平等推進行動計画～かわさき☆かがやきプラン～」も策定された。

本調査は、男女共同参画に関する市民の皆さまの意識やお考えを把握し、本冊子『2011（平成 23）年版 かわさきの男女共同参画データブック』作成の基礎資料とすること、ならびに今後の男女共同参画施策を実施するにあたっての参考とすることを目的に実施した。

（3）実施概要

調査主体：川崎市

実施担当：市民・こども局人権・男女共同参画室、川崎市男女共同参画センター

母集団：市内在住の満20歳以上の男女1,155,357人（2009年12月31日時点）

標本抽出：住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出

標本数：3,500 サンプル

調査法：郵送配布・郵送回収法（督促状1回送付）

回収数：有効回収数1,195票（34.1%）

実査期間：2010（平成 22）年1月14日（木）～2月1日（月）

（4）調査内容

1. 男女共同参画社会の現状や制度について

男女の平等感（問1・2）／男女共同参画関連用語の認知（問3）

2. 生活の状況や考え方

生活満足度（問4）／不安や悩みの相談先（問5）／ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（問6・7）／生活時間の配分と満足度（問8）／地域活動の参加経験（問10）／地域活動に参加するにあたっての苦勞・阻害要因（問11）

3. 夫婦や家庭についての意識

女性が職業を持つことについての考え（問9）／結婚・家庭についての考え（問12）／性別役割分担意識（問13）／望ましい夫婦の就業形態（問14）

4. 男女の人権に関する実態と意識

性差についての考え（問 15）／セクシャル・ハラスメントの認知と被害経験、相談先（問 16・19）／ドメスティック・バイオレンスの認知と被害経験、相談先（問 17・20）／デートDVの認知と被害経験、相談先（問 18・21）

5. 男女共同参画関連の施設と講座の利用

川崎市男女共同参画センターの認知・利用経験（問 22）／職場・大学・男女共同参画センター・市民館での男女共同参画関連講座参加状況（問 23）

6. 基本属性

性別（F1）／年齢（F2）／居住区（F3）／同居者（F4）／同居要介護者の有無（F5）／本人職業（F6）／本人年収（F7）／世帯年収（F7）／婚姻状況（F8）／配偶者職業（F8）

（5）回答者の内訳

	全体	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	無回答
全体	1,195	160	130	206	158	186	179	160	16
女性	714	89	75	135	96	113	106	98	2
男性	454	69	52	68	60	72	69	62	2
答えたくない	13	2	2	3	1	1	4	—	—
無回答	14	—	1	—	1	—	—	—	12

3-2. インタビュー調査の概要

以下に、独自に実施したインタビュー調査の概要を記す。

（1）調査対象

女性のワークスタイル3タイプ（フルタイム、非正規雇用、専業主婦）について、川崎市在住の4組の家庭の計9名を対象とした。

- A：「女性フルタイム家庭」の夫婦（2名）
- B：「女性フルタイム家庭」の夫婦と妻の母（3名）
- C：「女性非正規雇用家庭」の夫婦（2名）
- D：「専業主婦家庭」の夫婦（2名）

以下にA～Dの各家庭における調査対象者のプロフィールをまとめる。

■ A 「女性フルタイム家庭」

	A 1 フルタイム女性	A 2 フルタイム女性（夫）
居住区	川崎市 多摩区	
年齢	30代前半	20代半ば
職業	商社の貿易事務	小売業の物流管理
同居者	夫婦・娘（8か月）	
実家の家族構成	父（70代前半）、母（60代前半）、 姉（30代前半）	母（50代前半）、おば、 妹（20代前半）

■ B 「女性フルタイム家庭」

	B 1 フルタイム女性	B 2 フルタイム女性 (夫)	B 3 フルタイム女性 (母)
居住区	川崎市 川崎区		横浜市
年齢	20 代後半	30 代前半	50 代半ば
職業	ドラッグストア薬剤師 ※産休中	製薬開発職	自宅で塾
同居者	夫婦・娘 (3 か月)		娘 (10 代後半、20 代前半)
実家の家族構成	母 (50 代半ば)、 姉 (10 代後半、20 代前半)	父 (60 代半ば)、母 (50 代 後半)、弟 (20 代後半)	子ども時代：両親、兄、弟、 おじ夫婦と子供

■ C 「女性非正規家庭」

	C 1 非正規女性	C 2 非正規女性 (夫)
居住区	川崎市 高津区	
年齢	30 代半ば	30 代半ば
職業	介護ヘルパー	コールセンター管理職
同居者	夫婦・娘 (1 歳)	
実家の家族構成	父 (60 代半ば)、母 (60 代前半)、 姉 (30 代後半)	父 (60 代後半)、母 (60 代半ば)、 兄 (30 代後半)

■ D 「専業主婦家庭」

	D 1 専業主婦	D 2 専業主婦 (夫)
居住区	川崎市 高津区	
年齢	30 代後半	40 代前半
職業	専業主婦	教育サービス業
同居者	夫婦・息子 (10 歳)・娘 (3 歳)	
実家の家族構成	父 (70 代半ば)、母 (70 代半ば)、 兄 (40 代半ば) とその家族	父 (60 代後半)、母 (60 代半ば)、 兄 (30 代後半)

(2) 実施概要

1. 実施方法

各対象者について、インタビュアー1名、記録者1名がおおよそ90分間にわたりインタビューを行った。

2. 実施日時

- A 1 フルタイム女性 : 2012年1月14日 (土) 14:00～15:30
- A 2 フルタイム女性 (夫) : 2012年1月14日 (土) 16:00～17:30
- B 1 フルタイム女性 : 2012年1月22日 (日) 13:30～15:00
- B 2 フルタイム女性 (夫) : 2012年1月22日 (日) 15:30～17:00
- B 3 フルタイム女性 (母) : 2012年1月22日 (日) 17:30～19:00

- C 1 非正規雇用女性 : 2012 年 1 月 14 日 (土) 9:30～11:00
- C 2 非正規雇用女性 (夫) : 2012 年 1 月 22 日 (日) 11:30～13:00
- D 1 専業主婦 : 2012 年 1 月 22 日 (日) 9:30～10:30
- D 2 専業主婦 (夫) : 2012 年 1 月 22 日 (日) 10:45～11:15

(3) 調査内容

おおよそ以下の内容について聴取した。1 および 2 は共通項目として、3 は調査対象ごとの個別項目である。

1. ライフヒストリー

現在の家族構成／自分が育った家庭環境／配偶者の家庭環境／価値観を形作った経験など
／キャリアデザイン／現在の場所に住んでいる理由 など

2. 現在のライフスタイル

平日と休日の生活パターン／通勤時間／家事の分担／子どもへの関わり方・教育方針／配偶者に対する不満や意見／役割 (モード) による意識の違い (例えば、妻、母、個として) ／勤め先の制度／働いていることへの罪悪感 など

3. 個別項目

フルタイム女性：今後のキャリアデザイン など

フルタイム女性 (夫)：妻がフルタイムで働いていることへの意見 など

フルタイム女性 (母)：娘への教育方針／現在の娘家族への関わり方／自身の介護について など

非正規女性：なぜ非正規雇用を選んでいるのか など

非正規女性 (夫)：妻が非正規雇用で働いていることへの意見 など

専業主婦：今後の就労意向 など

専業主婦 (夫)：妻の就労についてどう考えているか など

4. アンケート調査二次分析結果

本章では、川崎市民を対象に行われた最新の市民調査である「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」のデータを用い、二次分析を行った結果をまとめる。さまざまな働き方や性別におけるワークライフバランスの現状を把握するとともに、ワークライフバランスに関連する、女性の就労・夫婦や家庭の在り方に対する価値観についても概観する。特に、本研究の焦点である家庭内における夫婦関係について示唆を得るため、既婚者の家庭における女性（妻）と男性（夫）の現状や価値観のギャップに着目する。

4-1. 分析方針

ワークライフバランスについては、性別、婚姻状況、夫婦のワークスタイルによって異なることが想定される。よって二次分析では、男女回答者を婚姻状況およびワークスタイルによって5つの群に分類し、男女間・未既婚間・各種ワークスタイル間の回答傾向を比較した。

5群の内訳であるが、まず配偶者・パートナーのいる回答者（以下、既婚と総称する）については、女性の場合は自身のワークスタイルによって、男性の場合は配偶者・パートナーである女性のワークスタイルによって3群（「女性フルタイム」「女性非正規」「専業主婦」）に分類した。また、未婚の回答者については、自身のワークスタイルによって2群（「未婚フルタイム」「未婚非正規」）に分類した。

分類方法の詳細は図表 4-1、分析対象5分類の人数と構成比は図表 4-2 のとおりである。二次分析の対象者は773名（女性478名、男性295名）となり、「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査の全回答者1,195人に占める割合は64.7%である。

図表 4-1 回答者の分類方法

分類名	婚姻状況 (F8)	本人の仕事 (F6)	
		配偶者・パートナーの仕事 (F8)	
		女性	男性
女性フルタイム	・結婚しており同居 ・結婚しており別居 ・結婚していないがパートナーと暮している	・自営業主 (F6) ・家事従業者 (F6) ・正社員・正規職員 (F6)	・自営業主 (F8) ・家事従業者 (F8) ・正社員・正規職員 (F8)
女性非正規		・非正規雇用・内職在宅 (F6)	・非正規雇用・内職在宅 (F8)
専業主婦		・主婦・主夫 (F6)	・主婦・主夫 (F8)
未婚フルタイム	・結婚していない	・自営業主 (F6) ・家事従業者 (F6) ・正社員・正規職員 (F6)	
未婚非正規		・非正規雇用・内職在宅 (F6)	

図表 4-2 分析対象5分類の人数と構成比

	性別				合計		
	女性		男性				
	度数	%	度数	%	度数	%	
職業パターン	女性フルタイム	91	19.0%	62	21.0%	153	19.8%
	女性非正規	144	30.1%	71	24.1%	215	27.8%
	専業主婦	167	34.9%	92	31.2%	259	33.5%
	未婚フルタイム	51	10.7%	55	18.6%	106	13.7%
	未婚非正規	25	5.2%	15	5.1%	40	5.2%
合計	478	100.0%	295	100.0%	773	100.0%	

以上の5群について、アンケート調査の「男女の地位の平等に対する感じ方」(問1、問2)、「現在の生活に対する満足度」(問4)、「生活における優先度の希望と現状」(問6、問7)、「生活時間に関する満足度」(問8)、「女性の就労、夫婦・家庭に関する価値観」(問9、問12~問14)などに関する項目について、回答傾向を比較した。

4-2. 分析結果

本節では、各質問について回答傾向を概観し、男女間の違い、未既婚間の違い、ワークスタイル間の違いという視点で分析結果をまとめる。5分類と各質問のクロス集計結果は、付録に記す。

(1) 男女の地位の平等に対する感じ方

「家庭生活」「職場」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度の上」「社会通念・慣習・しきたりなど」「自治会やNPOなどの地域活動の場」「社会全体で見た場合」について、次の5段階で感じ方を尋ねた質問である。(問1、問2)

“男性の方が非常に優遇されている”

“どちらかと言えば男性の方が優遇されている”

“平等”

“どちらかと言えば女性の方が優遇されている”

“女性の方が非常に優遇されている”

うち、“男性の方が非常に優遇されている”と“どちらかと言えば男性の方が優遇されている”の2つを合わせたものを「男性優遇意識」とすると、以下のような傾向が見られた。

■ 家庭生活

男性(33.9%)よりも女性(62.9%)の方が、家庭生活における男性優遇意識が高く、他の項目の中でも男女の差(約29%)が大きい。

既婚3群においては、特に有職女性において高いが(女性フルタイム73.3%>女性非正規64.8%>専業主婦60.4%)、女性フルタイム家庭の男性(33.9%)、女性非正規家庭の男性(43.4%)との意識のギャップが大きい(女性フルタイム家庭は約40%、女性非正規家庭は約21%の男女差)。

このように家庭生活については、女性は、より男性が優遇されていると感じており、また有職女性

の家庭ではそのギャップが特に大きく、働く女性が家庭生活において男性の理解を得られていない傾向が伺える。

また男女とも、既婚者の方が未婚者よりも男性優遇意識が高い。実際に家庭を持っている方が、男性優遇の現状を実感しているためと考えられる。

■ 職場

男性（66.7%）よりも女性（78.7%）の方が、職場における男性優遇意識が高い。しかし、「家庭生活」ほどの男女差はない。

既婚女性については、専業主婦（87.8%）がもっとも高く、女性非正規（76.4%）、女性フルタイム（74.8%）と続いている。現在就労していない専業主婦の方が、「職場では男性の方が優遇されている」というイメージがあるようである。

未既婚に関しては、既婚者の方が未婚者よりも男性優遇意識が高い。これは未婚者の方が相対的に世代が若いため、男女平等意識がより浸透しており、また仕事場での職位が低く男女差が少ないためと考えられる。

■ 学校教育の場

他の項目に比べて回答者全体での男性優遇意識は低く（18.0%）、男性（12.1%）よりも女性（21.6%）の方がやや高いが、大きな違いはない。

未既婚やワークスタイルによっても大きな違いは見られず、男女とも、学校教育の場においては概ね男女平等であると感じていることが分かる。

■ 政治の場

男性（68.2%）よりも女性（88.7%）の方が、政治の場における男性優遇意識が高い。

また未婚の非正規雇用者、および女性非正規家庭の男女は、男性優遇意識が高い傾向が見られる。推測の域を出ないが、昨今の厳しい経済情勢においては、女性や非正規雇用者は就労に関する政治課題に関心が高い可能性があり、その違いによる影響が考えられる。

■ 法律や制度の上

男性（32.8%）よりも女性（61.9%）の方が、法律や制度の上における男性優遇意識が高く、他の項目の中でも男女の差（約29%）が大きい。

上述の「家庭生活」と同様の傾向が見られ、既婚3群においては、特に有職女性において高いが（女性非正規68.1%＞女性フルタイム62.7%＞専業主婦58.1%）、女性非正規家庭の男性（45.6%）、女性フルタイム家庭の男性（32.8%）との意識のギャップが大きい。特に女性フルタイム家庭では男女差が大きく（約30%）、男性と同等にフルタイムで働いている既婚女性は、男性が優遇される現状に法律や制度の不備を感じているが、一方でその男性パートナーは「法律や制度は整っているし、男女平等だろう」と思いがちな様子が伺える。

■ 社会通念・慣習・しきたりなど

他の項目に比べて、回答者全体での男性優遇意識がもっとも高い（84.1%）。さらに女性では90.2%にのぼり、男性（73.9%）よりも男性が優遇されていると感じている。

未既婚に関しては、男性においては未婚者よりも既婚者の方が男性優遇意識が高いが、女性においては男性ほどの違いは見られない。

既婚3群においては、女性は男性優遇意識の総量は大きく変わらないが（女性非正規 91.5%＞女性フルタイム 91.1%＞専業主婦 88.4%）、“男性の方が非常に優遇されている”というもっとも強い回答の割合は、有職女性の方が専業主婦よりも高い（女性非正規 37.6%＞女性フルタイム 34.4%＞専業主婦 25.2%）。男性については、女性非正規家庭の男性がやや男性優遇意識が高い（女性非正規 84.1%＞専業主婦 78.0%＞女性フルタイム 76.7%）。

日本は歴史的に男性優位の社会風土が根強く、女性は婚姻状況に関わらずそれを感じていることが分かる。中でも、夫婦のワークスタイルにおいて調整役を引き受けている非正規雇用の女性や、その男性パートナーは、より強く男性優位の状況を感じていることが伺える。

■ 自治会やNPOなど地域活動の場

他の項目に比べて回答者全体での男性優遇意識は低めで（37.3%）、男女とももっとも多いのは“平等”である（女性 49.6%、男性 69.6%）。しかし、男性（22.3%）よりも女性（46.5%）の方が、地域活動の場における男性優遇意識が高く、他の項目の中でも男女の差（約24%）が大きい。

未既婚に関しては、未婚者よりも既婚者の方が男性優遇意識が高い。

これらは、既婚家庭では夫よりも妻が、また未婚者よりも家庭を持っている既婚者の方が地域活動に関わっていることが多く、より実態を知っているためと考えられる。

また既婚3群においては、男女とも女性有職家庭の方が専業主婦家庭よりも男性優遇意識が高い傾向がある。これは、専業主婦家庭は妻に時間的余裕があり、より主体的に地域活動に関われる可能性が高いためと考えられる。

■ 社会全体で見た場合

他の項目に比べて、回答者全体での男性優遇意識が高めである（78.0%）。さらに男性（64.9%）よりも女性（85.9%）の方が、社会全体で見た場合の男性優遇意識が高く、他の項目の中でも男女の差（約21%）がやや大きい。

未既婚に関しては、男性では未婚者よりも既婚者の方が男性優遇意識が高く、女性では未婚フルタイムが男性優遇と平等の2極化傾向が見られる一方、未婚フルタイムは男性優遇意識が高い。総じて未婚者の男性優遇意識が低いのは、家庭を持っておらず男女差を感じにくいいため、また世代が相対的に若いため男女平等意識が浸透しているためと考えられる。

また既婚3群においては、上述の「家庭生活」や「法律や制度の上」と同様に、有職女性の家庭では女性（女性非正規 89.5%＞女性フルタイム 87.7%＞専業主婦 82.5%）と男性（専業主婦 73.5%＞女性非正規 68.2%＞女性フルタイム 62.9%）のギャップが大きい（女性フルタイム家庭で約25%、女性非正規家庭で約21%の男女差）。

以上から、さまざまな場における男女の地位の平等に関しては、おおむね男性よりも女性が、未婚者よりも既婚者が、既婚者については専業主婦家庭よりも女性有職家庭の方が、男性優遇意識が高いことが明らかになった。

特に既婚3群に関しては、有職女性の家庭において、「家庭生活」「法律や制度の上」「社会全体で見

た場合」の男女の地位について、男女の間の意識のギャップが大きかった。働く女性が、家庭で果たしている役割に不平等感を感じながら、彼女たちをサポートするはずの法律や制度といった仕組みの不十分さや、社会全体における男性優位の風土について大きなストレスを感じている一方、男性パートナーの理解を得られていない様子が伺えた。有職女性のワークライフバランスをより良好なものにするためには、これらの点について男性パートナーが意識を高める必要があると考えられる。

(2) 現在の生活に対する満足度

現在の生活についてどのように感じているか、満足度を次の5段階で尋ねた質問である。(問4)

“とても満足している”

“まあ満足している”

“どちらとも言えない”

“あまり満足していない”

“満足していない”

うち、“とても満足している”と“まあ満足している”の2つを合わせたものを「満足度」、「あまり満足していない」「満足していない」の2つを合わせたものを「不満足」とすると、以下のような傾向が見られた。

まず、全体では“まあ満足している”が57.2%と最も多く、満足度は66.8%、不満足度は21.6%である。7割近い人が、現在の生活に満足している。

男女間で比較すると、女性の幸福度は71.2%に対し、男性は59.6%と、女性の方が約12%高い。

未既婚に関しては、男女とも、未婚者より既婚者の方が満足度が高くなっており、特に未婚男性の不満足度が高い。未婚者は相対的に年齢が若いため、家庭や仕事から得られる満足感がまだ少ないためかもしれない。

既婚3群については、女性の場合は専業主婦(77.9%)の満足度がもっとも高く、女性フルタイム(74.7%)、女性非正規(68.5%)と続いている。男性の場合は、女性非正規家庭(67.6%)の満足度がもっとも高く、次が専業主婦家庭(63.7%)、もっとも低いのは女性フルタイム家庭(54.9%)である。女性の場合、「働かない」選択をした専業主婦や、「思いきり働く」選択をしたフルタイム女性の方が、家庭と仕事の両方をやりくりせねばならない非正規雇用の女性の生活満足度が低いものと思われる。一方男性については、家庭のことを女性に任せられる女性非正規家庭や専業主婦家庭で満足度が高く、家庭に対し一定の役割分担を求められる女性フルタイム家庭の男性の満足度がもっとも低いという結果となった。

また男女、未既婚に関わらず、非正規雇用者の不満足度が相対的に高いことは(女性非正規22.4%、未婚非正規の女性48.0%、未婚非正規の男性66.7%)、収入面の不満足が影響しているものと考えられる。

既婚者の夫婦のワークスタイルに着目すると、夫婦の満足度のバランスとしては、専業主婦家庭が夫婦どちらも満足度が高く、女性フルタイム家庭では男性の、女性非正規雇用家庭では女性の満足度が、相対的に低くなっていると言える。

この質問は生活全体に対する満足度を聞いたもので、必ずしも家庭や仕事、もしくはワークライフバランスに対する直接的な満足度を表すものではない。しかし、ワークライフバランスが取れている

ことが生活に対する全体的な満足に影響するであろうことを考えると、女性が仕事に就かず、家庭と仕事という男女の分業を行うことが、現状の社会にもっとも適合し、男女ともひとまずの満足を得られやすいということを表していると思われる。

(3) 生活における優先度の希望と現状

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、希望（問6）と現状（問7）の状態を、次の8つの選択肢で尋ねた質問である。

“「仕事」を優先したい（している）”

“「家庭生活」を優先したい（している）”

“「地域・個人の生活」を優先したい（している）”

“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（している）”

“「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）”

“「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）”

“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）”

“わからない”

この希望と現状の一致度をワークライフバランスの目安とするため、両者の一致の仕方と、現状で優先しているものがワーク（仕事）かライフ（家庭生活、地域・個人の生活）か両方であるかで、回答者を以下の7タイプに分類した。

「完全一致」：希望と現状が完全に一致している。

「一部一致（ワーク優先）」：希望している要素が一つ以上現状でも優先できており、現状優先しているものが「仕事」のみである。

「一部一致（ライフ優先）」：希望している要素が一つ以上現状でも優先できており、現状優先しているものが「家庭」、「地域・個人の生活」、もしくはその両方である。

「一部一致（両方優先）」：希望している要素が一つ以上現状でも優先できており、現状優先しているものが「仕事」と、「家庭生活」もしくは「地域・個人の生活」の、両方を含んでいる。

「不一致（ワーク優先）」：希望している要素が一つも現状で優先できておらず、現状優先しているものが「仕事」のみである。

「不一致（ライフ優先）」：希望している要素が一つも現状で優先できておらず、現状優先しているものが「家庭」もしくは「地域・個人の生活」である。

「不一致（両方優先）」：希望している要素が一つも現状で優先できておらず、現状優先しているものが「仕事」と、「家庭生活」もしくは「地域・個人の生活」の、両方を含んでいる。

これらの7タイプの構成比について、男女間で比較してみると、女性は「完全一致」（43.4%）がもっとも多く、次が「一部一致（ライフ優先）」（25.4%）である。男性は「一部一致（ワーク優先）」（32.1%）と「完全一致」（31.0%）がほぼ同率でもっとも多い。

第2章で述べたように、日本におけるワークライフバランス施策は働く女性の「仕事と家庭の両立支援」を目的に始まったものであるが、現在は男性も含めたすべての個人における「働き方の見直し」を目指すものである。本研究は女性のワークライフバランスの阻害要因を明らかにすることに主眼を置いているが、その意味で、男性のワークライフバランスが女性よりも取れていないという現状を示

しておきたい。

また未既婚に関しては、女性の場合は未婚者よりも既婚者の方が「完全一致」が多く、男性の場合は、未既婚で傾向が見られなかった。

さらに既婚3群に関しては、女性は専業主婦の方が有職女性よりも「完全一致」が多く（専業主婦 56.4% > 女性非正規 42.1% > 女性フルタイム 34.4%）、男性も同様であった（専業主婦 38.9% > 女性フルタイム 26.7% > 女性非正規 26.1%）。また全体的に「不一致」である回答者の割合は少なかったが（女性 8.5%、男性 11.5%）、既婚3群において「不一致」が相対的に多かったのは、女性ではフルタイム女性（10.0%）、男性では女性非正規家庭の男性（15.9%）で、どちらもワーク優先の方向での不一致が多くなっている。

以上から、男女で分業している専業主婦家庭で、男女ともにワークライフバランスが取られやすい現状が明らかになった。

（４）生活時間に関する満足度

「仕事・就労」「睡眠・休養」「炊事」「洗濯」「掃除」「地域活動（自治会・近所付き合いなど）」「自分の時間（趣味・教養・友人等との交流など）」「子育て・教育（入浴・おむつ交換・遊び相手・家庭学習の世話など）」「家族との団らん」といった普段の生活について、休日・平日ごとに、掛けている時間の長さに対する満足度を“現状に満足”“増やしたい”“減らしたい”の3段階で尋ねる質問である。（問8）

これらに関しては、男女間の違い、未既婚間の違い、既婚者については女性のワークスタイルによる違いという観点で、特徴的な傾向をまとめる（詳細な選択率については、付録を参照）。各項目については、『仕事』（「仕事・就労」「睡眠・休養」）、『家事』（「炊事」「洗濯」「掃除」）、『個人』（「自分の時間」）、『家庭』（「子育て・教育」「家族との団らん」）という4つのカテゴリごとに考察する。

■ 男女間の違いの特徴

『仕事』『家事』『個人』『家庭』について、ほぼ同等か、女性よりも男性の方が満足度が高い傾向が見られた。時間のやりくりについては、女性の方が満足度が低く、「やりたいのにできていない」というストレスや、「したくないのに多い」という負担感を感じていることが伺える。

■ 未既婚間の違いの特徴

未婚者と既婚者で意味合いが異なる『家庭』は考察から除く。

『仕事』に関しては、概ね既婚者よりも未婚者の満足度が高い。

『家事』『個人』に関しては、平日はほぼ同等か、未婚者の方が満足度が高く、休日に関しては未婚者の方がかなり満足度が高い。

いずれも未婚者の方が、果たすべき役割が少ない、あるいは生活時間の自由度が高いためと考えられる。

■ 女性フルタイム家庭の特徴

『仕事』に関しては、女性よりも男性の方が満足度が高く、男女間にギャップがある。妻は「もっと仕事を減らして、休みを増やしたい」と思っており、夫はそれに比べ「仕事も休養も現状に満足」という状況である。同じように働いていても、休日は女性が家事をこなさなければならない傾向があ

るためと考えられる。

『家事』については、男女とも「増やしたい」が多い。女性も男性も仕事の負担があるため、必要な家事を「できていない」というストレスがあることが分かる。実際に家事をどれだけ負担できているかは別にして、女性がフルタイムで働いている家庭では、男性パートナーも「自分もやらなくては」という意識が強いものと思われる。

『個人』については、男女とも「増やしたい」がもっとも多いが、現状の満足度はやはり女性の方が低い。

『家庭』については、「子育て・教育」については男女とも平日も休日も「増やしたい」という傾向が強く、他の夫婦形態に比べて大きなギャップはないが、「家族との団らん」については、女性は平日も休日も「増やしたい」と強く感じている一方、男性は他の夫婦形態と比較して「現状に満足」している人が多い。

■ 女性非正規家庭の特徴

『仕事』に関しては、「仕事・就労」について、女性よりも男性の方が「減らしたい」がかなり多い。「睡眠・休養」については、男女とも「増やしたい」が多いが、休日についてはより女性の満足度が低く、「増やしたい」が男性よりかなり多い。女性非正規家庭では、男性の仕事負担感が大きく、一方で休日に関しては女性が休めない負担感が大きいことが伺える。

『家事』に関しては、女性の「減らしたい」が他のワークスタイルに比べて高く、特に休日の負担感が大きい。同じ有職女性でも、フルタイム女性は「やりたいけれどできない」のに対し、非正規女性は「平日も休日も、仕事も家事もやらなくてはならない」という負担感が大きいことが分かる。一方、女性非正規家庭の男性は、家事に関しては「現状に満足」が他の夫婦形態の男性に比べてかなり高くなっている。

『個人』に関しても、女性と比較して男性の「現状満足度」が高く、他の夫婦形態の男性と比較しても突出して満足度が高い。

これらからは、女性の大きな負担感に対し、「非正規なのだから家事は女性にやってもらって当然」という感覚が見え隠れする。

『家庭』に関しては、「子育て・教育」に関しては、女性は「増やしたい」が多いのに対し、男性の「現状満足度」が他の夫婦形態の男性に比べてかなり高くなっている。これも、家庭における役割について、女性に任せてしまっている関心の低さが伺われる。一方で「家族の団らん」については、フルタイム家庭ほどではないが、男女ともに「増やしたい」傾向がある。中でも平日に関しては、女性非正規家庭の男性が「増やしたい」という割合が高い。自分の仕事の負担が大きいため、平日の団らん時間を確保できていないためなのか、あるいは女性も働いているために平日に家族が揃いにくいいためなのか分からないが、特徴的である。

■ 専業主婦家庭の特徴

『仕事』に関しては、男女とも満足度が高い。特に「睡眠・休養」に関しては、専業主婦女性の満足度が際立って高い。男性は他の夫婦形態の男性に比べ、平日に関しては「仕事・就労」も「睡眠・休養」ももっとも満足度が高く、休日に関しても、女性フルタイム家庭の男性に次いで高めである。

『家事』についても、男女とも満足度高い。女性は「やって当然」、男性も「やってもらって当然」という感覚が共有されているものと思われる。また、男性について特徴的なのが、休日の家事を「増や

したい」という割合が、他の夫婦形態の男性と比較してかなり高い点である。おそらく、専業主婦である妻に普段全面的に家事を任せているため、「休日くらい手伝わなくては」という引け目、もしくは気づかいが意識されているものと考えられる。

これらからは、専業主婦家庭では、女性が仕事をせずに家事に専念することで、休養を確保しながらも男性を全面的にサポートでき、結果的に男性パートナーの満足度も高めていることが分かる。

さらに『個人』については、他の夫婦形態と比べて、女性はもっとも現状満足度が高いが、男性はもっとも「増やしたい」が高い。これは、女性がずっと家庭にいるため、男性は「自分の時間」を確保しづらいためと考えられる。

『家庭』に関して、「子育て・教育」については女性は「減らしたい」、男性は「増やしたい」と感じており、普段女性中心の子育て傾向にあるものの、男性もそれを自覚している様子が伺える。「家族の団らん」については、女性は現状に満足しているが、男性は、特に休日に「増やしたい」と感じている傾向が見られる。これは、男性が平日は仕事優先で過ごしているため、休日にはその穴埋めをしたい、という感覚があるものと考えられる。

以上のように、既婚家庭の夫婦のワークスタイルによって、男性、女性それぞれに、ストレス、負担感、負い目等のワークライフ「アン」バランスが生じていることが分かった。本二次分析では、それぞれの家庭の状況が把握できるわけではないので、あくまで総合的な傾向を読み取ることしかできない。しかし、これらの結果は、夫婦というミクロレベルの関係性においても、それぞれのちょっとした気づきや配慮によって、こういったアンバランスを改善できる可能性があることを示唆していると言えるだろう。

(5) 女性の就労、夫婦・家庭に関する価値観

ここでは、女性の就労、夫婦や家庭の在り方に関する価値観について考察する。

まず『女性の就労』に対する価値観については、一般的に女性が職業をもつことについてどう考えるか、次の5つの選択肢で尋ねた質問である。(問9)

“女性は職業をもたない方がよい”

“結婚するまでは職業をもつ方がよい”

“子どもができるまでは、職業をもつ方がよい”

“子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい”

“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”

これらについては、下の選択肢ほど「革新的」、上の選択肢ほど「保守的」として分析する。

また、夫婦や家庭の在り方については、『結婚・子ども・離婚』および『夫婦の就労形態』に対する価値観を考察する。

まず『結婚・子ども・離婚』に対する価値観は、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」というそれぞれの考え方について、“賛成”“どちらかと言えば賛成”“どちらかと言えば反対”“反対”の4段階で意見を尋ねた質問(問12)である。

また『夫婦の就労形態』に対する価値観は、「女性の仕事は、収入が少なくても、勤務時間の選べる仕事が望ましい」「家族を養うのは男の責任である」「男は外で働き、女は家庭を守るのが望ましい」というそれぞれの考え方について、“そう思う”“ややそう思う”“あまりそう思わない”“そう思わない”の4段階で意見を尋ねた質問（問13）、および「収入や福利厚生が同じであるとしたら、どのような夫婦の形態が望ましいと思うか」について、以下の3つの選択肢で尋ねた質問（問14）である。

“夫も妻も同じ程度の勤務時間で働き、家事も半々で分担する”

“夫の方が長い時間働き、妻が勤務時間を調整し家事を分担する”

“妻の方が長い時間働き、夫が勤務時間を調整し家事を分担する”

これらについて、『結婚・子ども・離婚』の4つの質問に関しては“賛成”“どちらかと言えば賛成”の2つを合わせたものを「革新的」、 “どちらかと言えば反対” “反対” の2つを合わせたものを「保守的」として、『夫婦の就労形態』のうち問13の3つの質問に関しては、“あまりそう思わない” “そう思わない” の2つを合わせたものを「革新的」、 “そう思う” “ややそう思う” の2つを合わせたものを「保守的」として、問14の質問に関しては、“夫も妻も同じ程度の勤務時間で働き、家事も半々で分担する”を「革新的」として、分析する。

これらに関しても、男女間の違い、未既婚間の違い、既婚者については女性のワークスタイルによる違いという観点で、特徴的な傾向をまとめる（詳細な選択率については、付録を参照）。

■ 男女間の違いの特徴

『女性の就労』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有している。

『結婚・子ども・離婚』に関しては、男性よりも女性の方が革新的な傾向が見られる。

『夫婦の就労形態』についても、おおよそ女性の方が革新的であるが、「女性の仕事は、収入が少なくても、勤務時間の選べる仕事が望ましい」については、あまり男女差は見られない。

このように、男女に関する伝統的な価値観については、女性の方がより否定的であることが分かった。

■ 未既婚間の違いの特徴

『女性の就労』に関しては、婚姻状況に関わらず、おおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有している。

『結婚・子ども・離婚』に関しては、既婚者よりも未婚者の方が革新的な傾向が見られる。

『夫婦の就労形態』についても、既婚者よりも未婚者の方が革新的である。ただし未婚者については、「革新的」と「保守的」で2極化する傾向が見られ、これはまだ結婚していない未婚者の場合、夫婦の在り方についてさまざまな価値観の人が含まれているためと考えられる。

■ 女性フルタイム家庭の特徴

『女性の就労』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、どちらも“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”の割合がもっとも高い。

『結婚・子ども・離婚』に関しては、女性の場合、「結婚」についてはフルタイム女性は専業主婦よりも保守的である一方、「子ども」に関しては3つの夫婦形態の女性の中でもっとも革新的である。「離婚」に関しては、既婚3群の女性で大きな違いは見られない。「結婚」について、有職の女性がより保

守的で、“結婚したほうがよい”と考える割合が高いのは、おそらく職業をもちながら結婚するという選択をした点で、結婚への意識や覚悟が大きかったためではないかと考えられる。その一方で、「子ども」に関しては“必ずしも子どもを持つ必要はない”という割合が専業主婦や非正規雇用女性と比較してもっとも高く、仕事を持ちながら結婚はできても、子どもについては仕事を続ける上で障壁が高いという意識があるのかもしれない。

男性の場合、「結婚」「子ども」に関しては3つの夫婦形態の中で中間であるが、「離婚」に関してはもっとも保守的である。中でも「子ども」に関しては、革新的な考え方のフルタイム女性とのギャップが大きい。女性フルタイム家庭では、子どもを持つことについて、夫婦の考え方の意識的な歩み寄りが必要と言えるかもしれない。

『夫婦の就労形態』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、どちらも革新的で、特に女性はその傾向が強い。

■ 女性非正規家庭の特徴

『女性の就労』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、どちらも“子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい”がもっとも多く、次に“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”が続いている。男性については、“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”の割合は、3つの夫婦形態の男性の中でもっとも高い。非正規雇用の形態でパートナー女性が仕事を続けていることを肯定的に捉えていると考えられる。

『結婚・子ども・離婚』に関しては、女性の場合、「結婚」については専業主婦よりも保守的である。これはフルタイム女性と同様の理由によるものと考えられる。一方で「子ども」に関しても3つの夫婦形態の女性の中でもっとも保守的である。非正規女性は、子育てのために現在のワークスタイルを選択している可能性が高いため、このような結果になったのかもしれない。「離婚」に関しては、既婚3群の女性で大きな違いは見られない。

男性の場合、すべてにおいて、際立って革新的であることが特徴的である。保守的な傾向が強い非正規女性のパートナーとの間でギャップが大きい。なぜ女性非正規家庭の男性で夫婦の在り方について革新的な傾向が強いのかははっきりしないが、上述した「生活時間に対する満足度」において明らかになった、女性の負担に対する無理解の傾向と関連する要因があるのかもしれない。

『夫婦の就労形態』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、3つの夫婦形態の中で中間である。

■ 専業主婦家庭の特徴

『女性の就労』に関しては、男女ともおおよそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、男女とも“子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい”がもっとも多い。女性の場合3つの夫婦形態の中では“子どもができるまでは、職業をもつ方がよい”とする割合が高い一方、“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”という人も約23%いる。これは、出産・育児のために、価値観とは異なるが専業主婦を選択している人も一定数含まれるためと考えられる。男性の場合、3つの夫婦形態の男性の中では“結婚するまでは職業をもつ方がよい”と“子どもができるまでは、職業をもつ方がよい”の割合がもっとも高く、女性の就労に関してより伝統的で保守的な考え方の人が多いことが分かる。

『結婚・子ども・離婚』に関しては、女性の場合、「結婚」についてはもっとも革新的で、“結婚しなくてもいい”と考えている人の割合が多い。「子ども」に関しては3つの夫婦形態の中では中間で、「離婚」に関しては、既婚3群の女性で大きな違いは見られない。このように専業主婦が有職女性よりも、結婚や子どもに関して革新的な傾向が強く、また現状は経済的に自立していないにも関わらず「離婚」に関しても特に保守的ではないことは、意外に感じられる。家庭と仕事の選択やバランスについて、有職女性ほどの葛藤を経験していないがゆえの楽観さによるものなのかもしれない。

『夫婦の就労形態』に関しては、男女ともおおそ現状のワークスタイルに沿った価値観を有しており、保守的傾向が強い。ただし女性の場合、「収入や福利厚生が同じであるとしたら、どのような夫婦の形態が望ましいと思うか」については、女性非正規よりも若干革新的であり、現在専業主婦であるにも関わらず、半数が“夫も妻も同じ程度の勤務時間で働き、家事も半々で分担する”を望ましいとしている。専業主婦家庭の男性のその割合が約3割であるので、男女間のギャップが大きい。

また「男は家族を養う責任」についても、女性（69.3%）に比べ、男性（85.6%）の保守的な傾向が強い。つまり、専業主婦家庭の男性は、女性が期待している以上に「養わなくてはならない」という気負いが大きいと言える。

このように、ワークライフバランスについて、どのようなバランスを理想とするかに大きく影響すると思われるさまざまな価値観について、現状の夫婦形態と即していなかったり、夫婦の間で食い違いがあったり、という状況にあることが明らかになった。

個人の価値観を変えたり歩みよったりすることは、生活時間などの調整や助け合いに比べると難しい課題である。しかしその価値観について、「自分はどうしてそのような価値観を持っているのか」とそのルーツを理解したり、「その“理想”が実現しなければ、本当に幸せになれるのか」と問い直すことで、あらためて、自分を支えると同時に無意識的にとらわれているとも言える価値観から解放され、自分の内側からより良好なワークライフバランスを取れるようになるかもしれない。

以上の二次分析の結果から、意識、生活、価値観といったあらゆる側面で、さまざまなギャップのなかでワークライフバランスを取れずにもがいている女性の姿が浮かび上がった。

しかし、そのようにワークライフバランスに関して課題を持っている女性であっても、「現在の生活に対する満足度」では、約7割が“とても満足している”“まあ満足している”と答えている。ここに、女性たち自身が気づいていない問題があるのではないだろうか。真のワークライフバランスを実現するための阻害要因を突き詰めるには、より深いレベルで、家庭・夫婦の現状と意識に関して理解する必要がある。

よって次章では、さまざまな夫婦形態の男女に対し詳細なインタビュー調査を行い、この課題に取り組む。

5. インタビュー調査結果

5-1. 分析方針

本章では、二次分析の結果を踏まえ、女性のワークライフバランスの阻害要因について、より深いレベルでの考察を行う。ここで分析する4つの家庭の事例から、女性全般に関する知見を導き出すのは難しい。そこで、子育て世代である20代後半～40代前半の幅のなかで、30代を中心とする層を対象に、ワークライフバランスを一番身近な家庭から実現していくためにはどうしたらよいかという視点に立って、分析をする。4つの家庭で共通にみえる傾向よりも、それぞれの事例で見えてくる夫婦のワークライフバランスをめぐる行動や意識の構造に注目して、どうしてそのような構造が生まれてくるかという枠組みで分析をする。

5-2. 事例分析

(1) 女性フルタイム家庭A

A1 フルタイム既婚女性

A2 フルタイム既婚女性（夫）

■家族

A1さんは、30代前半、商社の営業事務の仕事をしている。2010年に結婚し、8ヶ月の娘がいる。夫のA2さんは、20代半ば、小売業で倉庫管理の仕事をしている。

A1さんの家族は、両親と結婚している姉がいる。両親は町田市に住んでいる。一方、A2さんの両親は、幼いころに離婚していて、現在、母親が、広島でおばと大学生の妹と住んでいる。

■現在の生活

平日は、朝5時40分に起床して、自分の弁当をつくり、夕食の仕込みをする。夫のA2さんは、5時台に起床、6時台には出勤する。A2さんは、川崎から市川まで1時間45分の通勤時間である。夫の出勤後、7時に子どもを起こし、朝食（離乳食と母乳）を与える。7時半には、母親（または両親）が到着し、子どもを預けて、7時40分には出勤、丸の内まで45分程度の通勤時間である。勤務は月曜から金曜で時間は9時から17時半。17時半に退社、帰宅し、親はそこで帰るか、一緒に夕食を食べてから帰宅する。娘は20時半にお風呂に入って就寝。A2さんの帰宅は早くて21時、それから、入浴・夕食、そして、一緒に就寝というパターン。休日は、子どもと同じ時間に起床、テレビをみたり、公園に行ったり、親や姉のところに遊びに行ったりする。夫の休みはシフト制で基本は土日だが、不定期となっている。夫と休日が合えば、一緒に過ごす。

■サポート体制

A1さんがフルタイムで働くためのサポートは両親によって提供されている。町田に住む母親は、A1さんの祖母の介護もしながら、毎日、娘の面倒をみに、30分かけて、車で川崎まで通っている。

ときには、父親も一緒に来てくれる。もともと保育園に通わせようと思っていたが、職場復帰の時期が中途半端ということもあって、一時保育を探していたが、母親がそれでは子どもがかわいそうということで、面倒をもってもらうこととなった。ただ、今後については、保育園を申し込んでいる。

また、夫のA2さんも協力的である。職場が遠く、朝早く出て、夜遅く帰ってくる生活パターンは変えられないが、休日は、料理以外の家事はやるし、子どもの世話もしっかりやってくれているようだ。平日も10分だけでも会いたいと21時までには帰ってくるようにしている。A1さんの夫の評価は、「よくやってくれている、要望はない」というくらいである。

一方、職場のサポート体制はどうであろうか。A1さんが勤める機械部品の輸入商社は社員が70人くらいの中小企業で、A1さんは得意の英語を使って、貿易事務の仕事をしている。会社では、出産したらやめるのが当たり前で、先輩たちがそうしてきたから、自分もそのつもりだったという。しかし、妊娠5ヶ月のときに上司（男性）に退職の意を伝えると、引き止められ、その上司が社長にも話をしてくれて、その会社で産休を取った初めての女性となった。そういった意味では、理解のある職場といえるだろう。

夫と両親、そして職場のサポートを受けながら、A1さんは、仕事と家庭生活を両立している。娘の成長を毎日、A2さんに話すことが楽しく、周りのサポートを受けて、今の生活に満足をしている。

■A1さんの仕事と家庭に対する意識や価値観

ここではもう少し、突っ込んで、A1さんの仕事や家庭への意識や価値観について考察してみよう。

商社に勤める父と専業主婦の両親を持つA1さんは、小さいころからやんちゃで、おとなしい姉と比べると活発な少女だった。スポーツも得意で中学は硬式テニス部、高校では器械体操部に所属して活躍した。幼いころから習い事もピアノ、英語、習字と数多くやっており、そのなかでも、姉の友人の母親に教わっていた英語は楽しく、そのあとのA1さんの人生に大きな影響を与えることになる。地元の中学校を出たあと、高高一貫校に進学し、高校時代に3ヶ月ハワイに留学、大学時代も英語の家庭教師をやるなかで、英語を使える仕事をやりたいという思いが強くなっていった。就職時には、貿易関係の仕事を探し、今の会社に入ることとなった。総合職ではなく、事務職ではあるが、英語を使うという点では、誰でもできる仕事ではなく、直接先方とやりとりをしている。バリバリとコミュニケーションをとる自信はないが、アメリカ担当ということもあって、時差の関係上、直接先方とやりとりすることはあまりなく、メール等でじっくり考えて対応できる点でストレスは少ない。幼少のころから大好きだった英語を使った職につき、事務職とはいえ、取引先とのやりとりもある程度まかされるという意味ではやりがいもある。

学生時代、大学を卒業したら、就職し、結婚してからも働きたいと思っていたようだが、それでも出産したらやめるという意識があった。それは、専業主婦であった母親の影響が大きいという。しかし、先に紹介したように、妊娠後、退職しようとしたときに、上司に引き止められたということと、英語は使っていないと使えなくなるものという認識があり、幼稚園からやっていたものを失いたくない、もったいないという思いが強かったことで、出産後も仕事を続けることを決意した。

ところが、娘を出産し、その気持ちが揺らぐことになる。目の前にわが子が登場すると、離れたくない、成長をその場で見ていたいという気持ちが強くなった。職場に復帰したくなくなったが、産休をとった第1号ということで、会社としてもモデルとなる存在であったこともあって、やめるわけにはいかなかった。

今でもその気持ちはあまり変わっていない。子どもは2人ほしいと考えているが、2人目ができた

ら退職しようと考えている。子ども2人を育てながら働くのは、体力的に厳しいということもあるようだが、そこにはいくつかの罪悪感がある。ひとつは、子どもを保育園に預けるという罪悪感。現在は、親がみているので、子どももさびしさを感ぜずよいと考えているが、保育園となると違うという認識を持っている。そして、保育園に預けるようになると、急な病気で、途中で帰宅したり、休んだりすることも増えると、会社に対して迷惑をかけているという罪悪感もある。また、のちに述べるが、夫のA2さんは、子どものそばにいてほしいという考え方を持っているので、それをせずに働いていることで、夫への罪悪感もあるといえるだろう。8ヶ月のまだたよりなく、守るべき存在にしかみえない娘を目の前にしている「今」だからという注釈つきではあるが、子どものそばにいてあげたいという価値観は、A1さんにとって、重要なものになっている。

これは先に述べたように、A1さんが最も影響を受けたという母親が生き方のモデルになっている。A1さんの母親は、専業主婦で、教育熱心で勉強についてはうるさく言われたという。何事もしっかり、かっちりする人なので、「女としてこうあるべき」とは言われた記憶はないが、自然とモデルとしているようだ。A1さんにとって、母親は厳しかったが、よくほめてくれ、買い物をよく連れて行ってくれた。家にいてくれて、さびしい思いをしたことがなかったと記憶している。一方、父親は仕事が忙しく、土日もないことも多く、さらには小学2年生から高校2年生まで単身赴任でそばにいなかった。その分、やさしかったという思い出が残っているが、父がいないさみしさを母親が埋めてくれたという認識を持っている。だからこそ、自分の子どもにも母親がしてくれたことをしてあげたいと考えている。娘にも、英語も含め、楽しい習い事をさせたい、大学までは出してやりたい、やりたいことをやらせてあげたいと語ってくれた。

このような考え方なので、働き方としても理想なのは、子どもがさびしい思いをしないで、英語や興味のあるものにつながる仕事で、近場で働くことができ、ある程度お金がもらえて、自分もリフレッシュできるようなものであればと考えている。雇用形態にはこだわらず、会社組織で働くことや、役職に着くことへのこだわりもない。子どもの成長に合わせて、柔軟に働き方を変えていきたいと考えている。

■A2さんの仕事と家庭に対する意識や価値観

一方、夫であるA2さんの意識や価値観はどうであろうか。A2さんは、広島生まれ、2歳年下の妹がいる。父親と母親は離婚していて、父親に対しては「こんな父親にはなりたくない」という意識を持っている。高校ぐらいから家計のことを考えるようになり、パティシエになることを目指す。高校卒業後、広島の私立大学に進学したA2さんは、ケーキ屋2つ、チョコレート店、派遣の仕事、夜の居酒屋と5つのバイトを掛け持ちして、学費、自分の生活費、家に入れる分を稼いでいた。6日間寝ないこともあって、体を壊して倒れこともあったという。そのような無茶な生活を続ける動機は、家計を助けることと、パティシエになるという夢、そして、父親に対する反発心のようなものがあったと推測できる。ところが、大学4年生になって、突然パティシエになることに挫折し、あきらめる。「ニート」にはなりたくなかったからということで、得意だったPCで、SEの職を得て、上京することになった。パティシエを挫折したことはつらかったが、働くことは好きだし、プログラミングという仕事自体は楽しかったようだ。その後、SEの仕事も残業が多く、人にも接しない仕事であることに限界を感じ、たまたま仕事で関わっていた物流業界に興味を持って、現在の小売の企業に転職することになった。巨大倉庫で、入荷する50万という商品をいかに効率よく運ぶかを考えたり、仕組みづくりをしたり、やりがいを感じて働いているようだ。パティシエにはもう未練はないという。

A2さんの生活の中心は、子どもにある。父親として、お金の面で不憫な思いをさせたくない、早く帰って子どもに接する、学校のイベントに参加したい、子どもの気持ちのわかるような父親になりたい。これは、本人も認めているように、自分の父親が反面教師になっていることは明らかである。仕事でも、特に夢はないと言い、今の会社で上に行きたいという気持ちも、子どものためにどう稼ぐかという意識だという。飲みに行くこともほとんどなく、なるべく早く帰宅する。一人の時間も必要ないと感じていて、小遣いの利用もゲームを買うくらい。週に1～2時間通っているテニススクールも、「申し訳ない」と思いながら通っている。

このような考え方のA2さんなので、A1さんが働くことについても基本は反対している。現在は、妻の収入を貯金にまわしているので、仕方がないと考えているが、子どものそばにいてほしいというのが願である。特に幼いころはそうだし、大きくなってもパートやアルバイトならいいが、フルタイムの正社員はやめてほしいと考えている。一方で、A1さんについて「理想の女性で、要望はない」と言い、働いているのに家事もこなしているので、できるだけ手伝いたいと思っている。実際、A2さんは平日、遅く帰宅してから家事を手伝っている。子どものことがなければ、働いてほしい、それは当然とも語り、とにかく子どものことを考えて、家にいてほしいのだということを強調した。将来は、できれば子どもを3人もうけ、庭のある家を買って、海外旅行などもできるようなことを夢見ている。

■A1さんのワークライフバランスを支えるもの

現在のA1さんの姿をみれば、仕事と家庭生活のバランスはよく、満足度の高い生活にみえる。子どもにも恵まれ、家事や子育てに協力的な夫と、気兼ねなく子どもを預けられる親の存在、理解のある職場と自分の経験や能力を活かせる仕事。子を持つ既婚女性としては理想的なバランスであろう。ただし、そのバランスをA1さん夫婦が望んでいるかということとは違う。夫のA2さんは、妻には子どものそばにいてほしいと考えている。A1さん自身も、もともと出産すれば仕事はやめると考えていたし、職場の期待もあって、仕事を続けているが、出産後、その気持ちは変わった。そういった意味では「なるべく子どものそばにいたい」という思いで、夫婦の価値観は一致している。今後は、A1さんが2人目を妊娠すれば、退職し、その後は、子どもの成長に合わせて、パート等の非正規雇用で働くという形に落ち着きそうである。

現在、両親が孫の面倒をみているが、母親は祖母の介護もしながらのサポートであり、30分の道のりを車で通うことで、年老いていく両親としては、決して長くできるような体制ではない。それはA1さん夫婦もわかっており、来年度からは保育園を申し込んでいる。ただ、A1さんも不安に思っているとおおり、保育園に行けば、病気になる確率もあがり、仕事を早退したり、休んだりしなければならず、職場に迷惑をかけることも多くなる。それ以上に、保育園に預けるということは、子どもに対して申し訳ないという罪悪感を生み出す。そうすると、「なるべく子どものそばにいたい」という価値観のA1さん夫婦にとって、A1さんが専業主婦、または非正規雇用の働き方によっていくことが、ふたりの希望をかなえるバランスとなる。つまり、子どもの接し方に関する価値観を軸に、仕事と家庭のバランスをとっていくことになる。これは、もちろん、家庭としてのバランスをとる方法であり、夫婦の認識が一致していれば、うまくバランスをとることができていることになる。

■A1さんのワークライフバランスの阻害要因

ただ、このバランスを保つ関係性を、長い目で見たときに、不安な要素がないとは言い切れない部

分を見出すことができる。

現在、A1さん夫婦が、家庭としてバランスを保つことができているのは、「子どものそばにいたい」という思いであり、そうできないことに罪の意識を感じる共通の価値観にある。しかし、その思いの「出自」は違う。A1さんが、モデルとなった母親が自分にしてくれたように、「自分がしてもらったことをしてあげたい」ということであるのに対し、A2さんの場合は、反面教師の父親を意識して、「自分がしてもらえなかったことをしてあげたい」ということにある。「子どもが中心」という軸がぶれないかぎり、夫婦の満足感は高くなるだろう。ただ、この一番の価値観を実現できなくなるときの訪れたときに、どうなるだろうか。以下の記述は思考実験であって、今のA1さん夫婦の生活から推測されるものではないことを断わっておく。

例えば、A2さんの職場が変わる、業績の悪化で給料が下がる等の変化が訪れたとしよう。子どもに習い事をさせたり、一戸建ての家に住んだりと考えて、収入を増やそうと思えば、またA1さんが働くことを考えなくてはならない。その場合、ある程度の収入を期待して、正社員の道を選べば、子どものそばにはいられなくなる。保育園に預け、子どもから離れることで、罪悪感が生まれる。子どものために収入を増やそうとすれば、子どもから離れなければならないというジレンマを抱えることになる。また、A1さんに負担をかけないようにして、A2さんがさらに必死に働こうとすれば、大学時代のように、無茶をして、体を壊してしまうことだってありえない話ではない。

また、A1さんが、子育てについての考え方を変えることも十分に想定できる。今は乳児を抱えて、目の前のことで精一杯であるが、落ち着いてくれば、また働きたいという気持ちになるかもしれない。少なくとも、今の職場でのやりがいを考えれば、的外れな想定ではないはずである。近所で英語を使った仕事ができればと考えているが、そのときに、近場にそのような仕事になかったり、パートタイムの仕事としてなかったりしたら、どういうふうに思うだろうか。英語の知識を活かせないことをあきらめることができるだろうか。インタビューのなかでも、スーパーのレジ打ちのような仕事はしたくないと発言している。また、正社員で働きたいと希望したときに、A2さんは理解することはできるだろうか。父親として「こうありたい」という発言は多くあったが、夫としてどうありたいかという質問に対しては、最後まで答えることができなかった。妻の仕事のやりがい、キャリアを考えて意思決定できるだろうか。意地悪な見方をしてしまえば、今のA1さんへの献身的なサポートが純粋な妻への理解ではなく、自身の父親への対抗意識であったり、子どもをみてもらっている妻の両親への罪悪感であったり、自分だけの収入では、理想とする生活ができず、妻を働かせてしまっている罪悪感から生まれたものであることを完全には否定できないだろう。

このように、ふたりの「子どものそばにいたくはない」という価値観が、長い目で見たときに、ワークライフバランス実現の阻害要因になることはあるかもしれない。子どもを持った既婚女性のワークライフバランスは、単純にその人を支えるサポートのネットワークとして実現しているわけではない。夫婦それぞれの子育てや家庭の理想像、経済状況、親の支援などの状況と、罪悪感のような負の感情も含めて、複雑にからみあい、バランスしているといえる。さらに、長い目で見たときに、今の条件のまま、仕事と家庭がバランスするかは、わからないといえる。A1さん夫婦のように、家庭のあり方や子育てに関する価値観は、それが理想であっても、反面教師であっても、自身の親の影響が大きい。このような親の影響に着目して、次の事例をみてみよう。

(2) 女性フルタイム家庭B

- B 1 フルタイム既婚女性
- B 2 フルタイム既婚女性 (夫)
- B 3 フルタイム既婚女性 (母)

■家族

B 1 さんは、20 代後半、薬剤師としてチェーン店系のドラッグストアに勤めている。家族は夫の B 2 さんと 3 ヶ月の娘。現在は産休中である。実家は横浜で、父親が 2008 年に他界、50 代の母親と、大学生の妹が二人いる。夫の B 2 さんは、製薬メーカーの治験下請け会社の開発職で 30 代前半。B 2 さんの実家も横浜で、父母は健在で 20 代後半の弟がいる。

■現在の生活とサポート体制

B 1 さんは、現在産休中ということもあって、家にいるが、そのサポート体制はどうなっているだろうか。夫の B 2 さんは、朝 7 時に起きて、8 時に出勤、帰宅は 18~19 時、遅くても 20 時までには帰るようにしている。土日が休日で、休日出勤もあまりしないようにしている。料理は B 1 さんがやっているが、片付けは B 2 さんがやり、掃除も分担している。洗濯は夜寝ている間にしておいて、朝、B 2 さんが干してから出勤する。子どもの相手は土日が中心で、今、母親以外を受け入れない時期ということもあって、機嫌のよいときにやっている。また、大型犬を飼っており、その世話は B 2 さんが主に担当している。B 1 さんからみても、「わりと積極的にしてくれる」という夫の評価である。もともと共働きであったこともあって、分担するのは当たり前という考え方であり、子どもが生まれてからも同じような体制である。産休後は、保育園に入れる予定だが、休みがシフト制なので、保育園にみてもらえない休日は、土日休みの夫にみてもらうという腹づもりのようだ。基本的には実家に頼ろうと思っていない。これは B 1 さん、B 2 さん、両方の母親が働いているという背景があるようだ。

B 1 さんが勤める会社はどうであろうか。B 1 さんが勤めるのは、調剤薬局つきのドラッグストアチェーンで、横浜や川崎市内ではあるが、店舗の異動は頻繁に行われ、7 年間の勤務期間のなかで、すでに 4 店舗を経験している。勤務時間は朝 10 時~19 時、休みは先にのべたとおり、シフト制である。会社の支援制度は、産休、育休、時短といった一般的なものであるが、薬剤師は女性が多いということもあって、休むことにはあまり抵抗感がなく、周りのスタッフも支える体制はとられている。

B 1 さんは、自分の時間がほとんどないほど、育児にかかりきりの毎日だが、嫌とは思っていない。産休や育休中を活用できる期間は、子どもに向き合いたいと考えている。

以上のように、夫の B 2 さんのサポートもあり、資格を持った専門職ということもあって、職場にも復帰しやすく、働きやすい環境でもある。「仕事もプライベートも充実」と語ってくれたように、生活への満足度も高く、ワークライフバランスはとれているといえよう。

B 1 さん夫婦の仕事と家庭に対する意識や価値観

次に B 1 さんの意識や価値観について、生い立ちや家庭の状況からせまってみよう。B 1 さんの両親は、塾講師をしていて出会い結婚、その後、父親は、兄と進学塾を経営、母親の B 3 さんは、自宅で中学生を少人数教育で教えていた。礼儀に厳しく、教育熱心な家庭で、小学校受験をしたが失敗し

た経験がある。B1さん自身は、勉強はできたほうで、工作や図工が好きで、凝り性だったとふりかえっている。習い事も多くやっており、スイミング、ピアノ、書道をやっていた。勉強については、母親が勉強の予定を組んだり、つきっきりでみてくれたりしたようだ。父親は亭主閑白とまではいかないが、常に母親の上にいる感じで、父の影響が大きいとB1さんは語ってくれた。

地元の小学校に通ったあと、中学校は小学校受験で失敗した母親の母校に再チャレンジして合格。中高一貫の女子高で、世間一般的にはお嬢様学校と思われるところだった。もともと大人しい性格だったが、5歳のときに上の妹が生まれ、姉としての自覚が生まれ、変わったという。両親からは、人の役に立つ仕事につきなさいといわれ、特に父親は医者になることを希望していたようだ。B1さんも資格を持っていたほうが良いという親の勧めを受け入れ、自然と理系のほうへ傾いていった。大学進学時には、獣医になりたいという夢があったので、獣医学をやりたい、そして、一人暮らしもしたいという希望があったが、父親が反対し、一人暮らしもだめ、医学部受験をしなさいといわれ、衝突した。結局、一人暮らしをあきらめ、家から通える国公立の大学であればという条件で、獣医学部も受験も認めてもらえたが、医学部も獣医学部も選ばず、薬学部に進学することになった。高校のときには、キャリアウーマンとしてバリバリ働きたい、仕事をして社会に認めてもらいたい、結婚はしないかもしれないという意識だったという。このような価値観は父親の影響が強いという認識だった。

それでも、大学に入ると「キャリアウーマン志向」も変わり、大学の同級生だった、B2さんと2009年に結婚、そのときには、すでに勤めて4年がたっていて、一通りの仕事はできるようになっていたし、子どもはいたほうが楽しいと思ったので、計画は特になく、自然にまかせていた。結局、不妊治療のすえ、第1子を授かるが、兄弟はいたほうが良いので、2人目も考えている。もし子どもに、家にいてほしいと言われれば、一時的に専業主婦という選択肢もあると考えている。職場の年1回のキャリアの調査で、「上を目指していききたいか」と「このまま働きたいか」の項目で、前者に○をつけたことはない。専門職なので、それなりの収入であるし、管理職のストレスを考えると、今の働き方がベストである。B1さんにとって、働くとは、社会に貢献すること、人に役に立つことを、自分が学んできたことをいかして行うことであり、ボランティア活動や地域活動等で代替できるものではないという認識を持っている。

一番影響を受けたのが両親で、育ててきた家庭が理想だと考えている。親から愛情、お金をかけてもらったと感じていて、その分、親孝行もしたいし、自分の子どもに返していきたくて考えている。貯蓄をして、大学まで入れてあげたいし、習い事などもやりたいと思うことをやらせてあげたい。また、娘の将来に対しては、仕事もしてほしいし、結婚もしてほしいと考えているが、本人の意志を尊重したいと考えている。やはり、B1さんにとって、両親の考え方や、してくれたことが、自身の子育てや理想の家庭像に反映している。

一方、夫のB2さんは、転勤族だった父親と、専業主婦の母親のもとで育てている。父親は忙しく、朝早く夜遅かった。母親は教育熱心であったが、やりたいことをやらせてくれたと感じている。医者を目指していたが、医学部には入れず、薬学部に進学する。そこで、B1さんと出会う。卒業後、製薬メーカーの営業として就職するが、薬の開発職への希望があって、転職を決意して、現在の職を得る。彼が一番優先させるものとして、「自分のライフスタイル」ということを何度も語った。具体的には家庭を最優先にしていくということだ。管理職を目指すより、自分の時間をちゃんととれるような働き方をしたいと考えている。このような価値観は、朝早く夜遅く、休みの日も自分のことを優先させる父親の存在が反面教師になっているとのことだった。仕事があまくいかなくても、家族さえうまくいっていれば、何とかなるという思いがある。ここでも協力的な夫の行動の裏側には、「自分が父親

してもらえなかったもの」の実現という側面があったのだ。

■ B 3 さんの仕事と家庭に対する意識や価値観

ここで、B 1 さんの母親である B 3 さんの意識や価値観にも注目してみよう。B 3 さん自身も、教育熱心な家庭に育った。母親は教師だったし、父親は長男で一族をまとめているような存在で、近所からは「〇〇さんちの〇〇ちゃん」と常に見られているような感じで、「いい子、できる子」でないといけないと思っていた。兄と弟がいるが、男女の隔ててなく育てられた。実際、B 3 さんは勉強もできて、活発、小学校にときから大学に行きたいと言っていたという。

B 1 さんと同じ中高一貫の女子高を卒業後、私立大学へ進学。フランス語を勉強していたこともあって、仏語研究会に所属、漠然と将来は新聞社や出版社に就職したいと考えていた。最終的には、教授の推薦で、信託銀行に就職した。大卒の女子の就職は、コネがないと無理な時代だったと回顧している。銀行では窓口業務を担当、かわいがられ、成績もよかったが、2年間で退職する。

会社では、男性のような下積みをさせられず、甘やかされる一方、期待もされていないということを感じた。このまま結婚退職しても、何も残らない。そこで、大学時代、家庭教師の仕事で感じた子どもたちに教える楽しさを思い出し、教師だった母親の影響もあって、教育に関わらないと人生の意味がないのではと考えるようになったという。そこで、塾講師の仕事につき、そこで、B 1 さんの父親と出会い、結婚することになる。

その後、妊娠して、退職し、専業主婦となる。それでも、自宅周辺の子どもたちを集めて、塾のようなことをやっていた。産後も、すぐに仕事をはじめ、夫が塾経営で独立したときも手伝いもやった。2世帯住宅で、夫の両親と同居していたが、夫の父親が寝たきりで、母親が介護、家事は自分すべてやっていた。それが当然だと思っていた。

このような経験をしてきた B 3 さんなので、娘の B 1 さんに対しても、同じ女性として考えることは多かった。優秀で、大学も出て就職した同級生が、みんな退職していくのはもったいないと思っていて、娘には、一生続けられる仕事をしてほしいと考えていたそう。ただ、一方で、子どもを育てる楽しさも味わってほしいとも思っていた。家族をつくることは大事、一人で生きていこうと割り切った人は弱く、家族と暮らしていく人は強い。家族というわずらわしさそのものが生きていくということだと考えている。このように考え、先に述べたとおり、B 1 さんが獣医を目指したいというときに、獣医では就職口が少ないし、夫が望む医者だと、そう簡単に抜けられない職業だから、一度やめても戻れる薬剤師がよいと考え、薬学部を勧めた。最初は、B 1 さんが望む道ではなかったが、結果的に、B 3 さんがイメージしたキャリアを進み、家庭も持ち、仕事も続けられる環境にいる。

B 3 さんは、自身のキャリアのなかで、会社で女性が長く働くことができない現実をつきつけられ、塾講師という世界に飛び込んでいった。だからといって、この社会が男性優位であるとだけ考えているわけではない。男性も逃げたくても逃げられないなかで働いている部分がある。大事なことは男でも女でも選択肢があること、自分で環境を整えていくという意識であると語った。このように、B 3 さんの話を聞いていくと、B 1 さんの話だけでは見えてこなかった部分がみえてくる。B 1 さんは、自分の進路について大きな影響を受けたのは父親だと認識しているが、無意識のところで、母親の B 3 さんの影響が大きいということがみてとれる。実際、B 1 さんが幼いころから、意識的に、女性の様々な働き方のケースを聞かせたり、見せたりしたというし、自分と同じ中高一貫校に行かせたのも、内面教育がよいという B 3 さんの意見であったという。薬学部の受験も B 3 さんの考えだった。女性として、一生続けられる仕事を得ながら、家庭を持つこと、つまり、仕事と家庭をバランスさせるた

めに、どのような進路をとるかという点について、ターニングポイントで導いていたのは、母親であったといえる。

以上、この事例でも、女性フルタイム家庭Aの事例と同じように、自分が生まれ育ってきた家庭は、理想像であっても、反面教師であっても、自分の家庭のモデルとなる存在として、夫婦に影響を与えている。それと同時に、そもそも、自分の親の育て方そのもののなかに、自身の家庭をモデル化する影響力が内在化しているという構造もみえてくる。私たちは何種類もの家庭のあり方を経験しながら成長していくわけではないので、その影響の構造は当然であるといえるだろう。女性フルタイム家庭Bの事例では、とてもうまく親の影響が、女性のキャリアやライフスタイル形成にプラスに働いており、長い目で見たときのワークライフバランスは、女性のやりがい、収入面、夫の考え方、子育て等、うまく調和しているようにみえる。

次に非正規雇用の家庭をみながら、さらに、夫婦が無意識にモデルとなる家庭のかたちに縛られてしまっている事例をみてみよう。

(3) 女性非正規雇用家庭C

C 1 非正規雇用女性

C 2 非正規雇用女性 (夫)

■家族

C 1 さんは30代半ば、アルバイトで介護ヘルパーの仕事をしている。家族は夫のC 2さんと1歳の娘である。C 2さんは同い年でコールセンターの管理の仕事をしている。C 1さんには両親と姉、C 2さんには、両親と兄がいる。

■現在の生活とサポート体制

C 1 さんは、平日は8時に起床、子どもの着替え、食事、自分のことなどして、余裕があれば出かけることもある。夫のC 2さんは、7時半に起床し、8時半に出ていく。朝食はヨーグルトのみ。昼ごはんを食べたあとは、地域のセンターに行き、子どもを遊ばせたり、友人と会ったりして、夕飯の買い物をして帰宅。子どもがテレビを観ているあいだに支度し、18時半に夕食、19時にお風呂、就寝は21時過ぎぐらい。洗濯は午前中か、夕方にやることが多い。夫の帰りはほとんど終電の時間。休みも月6回くらいで決まっていない。

C 1 さん自身は、障害者の在宅介護のアルバイトをしている。この職場は、アルバイトで入り、正社員になり、結婚して、アルバイトに戻った。役職につくと、昼夜関係なく緊急の電話が入ったりすることになるので難しいと考えたという。子どもが10ヵ月になって、アルバイトを再開し、現在は月に3~4回程度働いている。仕事に行っているあいだは、C 2さんが子どもの面倒をみている。C 2さんの休みは、ある程度希望が通るので、C 1さんのシフトが出てから、C 2さんに休みを調整してもらっている。働く日は、朝から10時間程度の勤務時間となる。保育園等に預けるとなると、アルバイト代が飛んでしまう計算になるようだ。C 2さんは、仕事の日、帰りは遅いが、帰ってきてから片づけなどをしてくれるという。ただ、細かい気配りなどはしてくれないという評価であ

った。

■C1さんの仕事と家庭に対する意識や価値観

C1さんの両親は父方の両親と同居しており、祖父は自宅の敷地内で病院を営んでいた。C1さんの父親は水産関係の仕事をしていて、母親は祖父の病院を手伝ったりもしていたが、基本的には専業主婦だったようだ。幼いころは、おとなしく、引っ込み思案。小学校低学年のときにはいじめにあった経験もある。肺炎にかかって入院したことをきっかけに、このままじゃいけないと思い、外交的になろうと努力した。中学と高校は、私立の女子高に通い、ソフトボール部に所属した。父方の祖母がピアノを教えていた影響もあって、高校卒業後は、音楽の専門学校に進学し、ポップスを学ぶ。ただ、音楽で食べていくほどの才能はないと感じ、卒業後は、アルバイト生活になった。色々なアルバイトをした。その後、20代半ばに、犬（トリマーや動物看護）の専門学校に2年間通う。卒業後は、動物病院に勤めるが、給料が安く、このころは一人暮らしをしていたので、生活していくのが大変になり、イタリア料理店でもアルバイトもする。その後、今の障害者の在宅介護の仕事に就き、そのあいだに、友人の紹介でC2さんと出会い、結婚することになった。

このように、C1さんのキャリアをみていくと、アルバイトということもあるが特に仕事内容や専門性での一貫性はない。音楽と犬関連の専門学校で学んだことを活かしたとも言い切れない。

このようなC1さんの仕事観というのはどういったものであろうか。特に何になりたいとか、達成したいという考えはない。色々な人に会いたい、色々な考えに触れたいという意識がある。引き出しが多い人になりたい、専業主婦として引きこもるのは嫌だと感じている。自分でちゃんとお金を稼ぎたいという気持ちも持っている。与えられた仕事以外はやらないというわけではないが、あまりその職場に必要な以上にコミットすることはしたくないと考えている。自分の生活を犠牲にしてまで仕事をしたいとは思わない。プライベートに仕事を持ち込むことはよくない、引きずってしまうと、仕事もプライベートも楽しめないからだという。今の介護の仕事は、今までの仕事と比べると、責任が大きく、そのぶんやりがいもあるということだが、それでもやりがいを一番重要視しているわけでもない。そう言った意味ではうまくバランスをとっているとは本人は思っている。

一方、家庭に対してはどのような意識と価値観を持っているのだろうか。子どもに対しては、特に考えていないと語っていたが、色々なことをやらせてあげたいとは考えているようだ。子どもは思い通りにはならないから、本人が望むことをやればよいという考え方である。いつも家にいる必要はないが、子どもが学校から帰ってきたときには、いてあげたいと思う。ただ、常にそうである必要もないし、それが母親である必要もないとは感じている。家庭についても、こうあるべきというものはないが、仲の良い家族にはなりたいとは考えている。また、生活に困らない程度のお金があって、子どもの習い事にしろ、学校にしろ、選択肢がない状態にはしたくない。

両親からの影響はどうであろうか。自分の親に対して、色々なことをやらせてくれて、学費も長い間負担してくれたと感じている。母親は、「あなたのことは信頼しているから」とやりたいことはやらせてくれたし、あまり「女だから」といったうるさく言われたことはない。父親はあまり家になかったので、あまり何か言われた思い出はないという。

このように、C1さんは、仕事にしろ、家庭にしろ、かならずこうでなくてはならないという意識はあまりない。子どもに対しては、なるべくやりたいことはやらせてあげたいという考え方にはあるが、頑な感じではない。何か望むというよりは、強制はしたくないというスタンスで、これは自身の親の影響とも、C1さん自身のキャラクターともいえる。仕事に対するこだわりもあまりあるわけで

はないので、おそらく、どのような状況であっても、うまくワークライフバランスをとれるようなスタンスだといえる。あまり、多くを望まないからこそ、調和するということである。

■C2さんの仕事と家庭に対する意識や価値観

一方、夫のC2さんはどうであろうか。C2さんは、会社員の父親と専業主婦の母親の家庭に育った。ただ、母親はパートをしており、小学校は「カギっ子」だったという。それでもさびしいとは感じたことはなかった。父親は家事をせず亭主関白、母親は働いていたが、当然のように家事もきちんとこなす人であったという。

C2さんへのインタビューのなかで、強調されていたことは、「一人の時間が欲しい」ということであった。毎日、夜が遅く、休みの日もC1さんが働くあいだ、子どもの世話をしているので、家庭から距離を置きたいというストレスを抱えている。自分の時間が欲しいといっても、妻は子どもを抱え、普段自由にできないとも感じているからなかなかそうしたいともいえないようだ。

現在の仕事に対しては、人手不足で忙しいが、やりがいは感じている。今は転職をしたいとか、起業をしたいとかは考えていない。今の会社のなかで経営陣になるようなステップアップは考えている。家庭か仕事かという、仕事が優先。両親から「男だからこうあるべき」ということで教育されたことはないし、自分でもそこまで意識はしていないというが、いくつもの発言のなかで、亭主関白とそれを支える妻という自身の家庭を、無意識に理想としている、または前提として感じることがあった。「主夫になること無理、世間とはかく、自分が後ろめたい」「男がしっかり働く家を守る」「結婚して養うという意識ができた」「妻が自分より収入が多かったらプライド的には嫌」「家事は、自分の時間のなかで、自分からやるのはいいが、やらされるのは嫌」。こういった発言からは、家庭を守るためにも、男がしっかり働く、妻がそれを支えるという価値観が見え隠れする。自分でも保守的かもしれないと語ってくれた。休日に子どもの相手をするよりも、自身の休日の予定が、妻の仕事のシフトによって、コントロールされている、相手側に主導権があることにストレスを感じているともいえる。C1さんも、自分としては「妻としてこうあるべき」というものはないが、夫はあるかもしれないと語っていた。

また、印象的なのは、C2さんが語る妻のC1さんの印象が、インタビューとは違うことだ。「(やってほしいことをいうと)キレられる」「妻は(理想の家庭像が)あると思う」「子どもの育て方にポリシーがある」と語った。また、C2さん自身は、子どもはいなくてもよいと考えていたが、C1さんはそうではなく、子どもをつくるのがプレッシャーだったという。妻からは「夫」であることを求められ、「私自身をみて」「私は話を聞いてもらえない」と言われるという。あまりこだわりのないと思われるC1さんだが、実際には違うのかもしれないし、C2さんの思いこみかもしれない。どちらが正解とはいえない。ただ、ひとつ言えるのは、夫婦が、お互いを理解しようと話し合う機会はあまりなく、溝ができてしまっていることは確かである。

C1さんは、ある程度、やりがいのある仕事を無理なく続けながら、毎日、子どもと向き合い、帰りの遅い夫を支えている。そこにはもしかしたら、自身が無意識で持っている理想の家庭像にマッチしていないところがあるのかもしれない。C2さんも、妻が働くことを認めながらも、どこか、理想とする姿とのギャップを感じながら、協力しているように見える。お互いが何を理想としているか、相手に何を求めているのかを伝えきれていないだけでなく、自分自身でも理解できていないという状況にある。表面的に実現しているワークライフバランスでも、無意識に持っている意識や価値観によって、ストレスを生むことがあるのだ。

次に女性の生活満足度でいうと、一番であった専業主婦の家庭ではどうであろうか。

(4) 女性専業主婦家庭D

D1 専業主婦

D2 専業主婦(夫)

■家族

D1さんは、30代後半、夫のD2さんは40代前半、小学生の長男と、3歳の長女と暮らしている。D1さんの両親は70代で、現在、兄家族と同居している。D2さんの両親も70代で健在である。D2さんは、電力系の子会社に勤務している。

■現在の生活

D1さんは6～7時にあいだに起床、長男を学校に送り出し、食事に時間のかかる長女の世話をしながら、掃除などで午前中は終わる。夫は7時半に出勤。昼間に長女を連れて買い物に行く。16時ごろに長男が小学校から帰ってくるのでおやつを食べさせて、習い事の練習などをして、夕飯になる。夫のD2さんが帰宅時間は、自分が寝てから。夜ごはんはつくっておく。昼のお弁当もつくっている。D2さんは、平日はそのような状況なので、ほとんど家事や育児に関わることはできないが、休日はやっている。D1さんからすると「頼めば何でもやってくれる」存在で「よい主人」である。経済的には楽ではないので、そのことが不安要素でもある。

■仕事と家庭に対する意識や価値観

D1さんは、製薬会社に勤める父親と専業主婦の母親のもとで育った。活発な子どもで、外で遊んでばかりいたという。父親からは「人に嫌なことはするな、人にお金を借りるな」と言われて育った。母親からは特に言われなかったと記憶している。中学校では、漠然と母親のように、専業主婦になれば、普通でいられればと思っていた。高校では、4年制大学に行きたいと考えていたが、父親から女性なら行く必要はないと言われ、短大を勧められたが、行く気にはならず、それならと興味があった犬の看護とトリマーの専門学校に入学した。卒業後、動物病院に2年間勤務したが退職。そのあとの2年間は「家事手伝い」で家にいた。何かやりたいこともなく、このままではまずいと思いながらも今の生活が楽だと感じていた。親からは何も言われなかった。その後、新聞の折り込みに入っていた介護の仕事へ就く。そのころはまだ介護の仕事の現場に若い人は少なく、かわいがられた。その仕事で10年働くことになる。結婚は、その仕事について2年目のときだった。その後、長男が生まれるときに退職しようと思ったが、産休の制度もあるのだからと引き留められ、しぶしぶそうした。出産後、1年でパートとして復帰、職場に保育室があったので、そこに子どもを預けて働いた。月の半分くらいは子どもの病気で休んでいたが、職場の理解はあったという。その後、正社員に復帰するが、結局、2人目の長女が生まれるときに退職した。

キャリアに対する未練はまったくないと語る。この発言の出自は、仕事をやりきったというところにあるわけではない。妊娠中は、職場の同僚たちが、気を使って、休んでいてと言われたり、仕事を代わってくれたりということがあった。こういったことは、ありがたい半面、気をつかわれるのが面倒

だし、給料泥棒になってしまうという罪悪感がある。また、人員の余剰感があるなかで、自分が退職することで、他の人たちへチャンスを与えることができるという側面もあったようだ。これもひとつの罪悪感であろう。

ただし、子どもたちが成長し、家計が厳しくなっていくなかで、また働かなくてはならないという気持ちを持ち始めているようだ。一方で、小学校の息子のPTAの役員をそろそろ担当しなくてはならないといった事情や、娘の保育園や幼稚園への入園ができるかどうかなど、もう一度働くためには、障壁がある状態である。

夫のD2さんは、転職を繰り返し、D1さんと結婚するときも、契約社員で立場的には不安定な状況であった。それでもD1さんも、「困った時にはお互いさま」と言って、共働きをした。そのような人だからこそ、結婚したという。今までも、働きたいということであれば反対はしないし、妻の生き方をしぼることはできないと考えている。ただ、D1さんが特に働く希望がないのだとしたら、自分の稼ぎで養っていきたいと考えている。「男だから守る、稼ぐ」という意識はある。現在のように、妻が専業主婦であれば、平日、家にいるなら、家事をやるのは当然だと思うと発言している。

子どもに対してはどのように考えているのだろうか。D1さんは、子どもがしたい、ほしいということはしてあげたいと考えている。やはり、それは、自分が親にしてもらったことだからだという。D2さんは、子どもには何でも話してほしいと考えている。それも、自分自身が、今でも、実家の親とうまくコミュニケーションをとれないことを意識しての発言だった。ここでも、モデルとなる家庭として、自身の家庭を参照していることがわかる。

D1さんの家庭は、決して経済的に余裕がある状態ではないようだが、正社員の夫、専業主婦の妻という役割分担がはっきりしているので、お互いに対する不満もなく、生活の満足度は高いようだ。

5-3. インタビュー調査まとめ

以上、4つの家庭の夫婦の姿をみていくなかで、女性のワークライフバランスが実現していく構造をみてきた。今回の事例を分析すると、現時点で、ほとんどの女性が、ワークライフバランスを実現していると解釈できる状態といえるだろう。数少ない事例で、一般化はできないが、以下のような知見を仮説として呈示できる。

●ワークライフバランスの実現の前に経済的自立が前提となっている。

夫婦、特に子どもがいる家庭において、当たり前のことであるが、「食べていけること」が大前提となっている。経済的な自立がなければ、仕事と家庭の調和など非現実的なスローガンでしかないという認識である。今の経済状況を考えれば、今後もその傾向は高まるだろう。

●ワークスタイルを選択することが、ワークライフバランスを実現する基本戦略となっている。

女性は、フルタイム、非正規雇用、専業主婦のうち、どの形態が最もワークライフバランスを実現できるものかということで選択しているのではない。必要な収入、子どもの成長など、そのときの家庭の状況と仕事の状況を合わせて考え、バランスがとれるワークスタイルを選択している。したがって、そのワークスタイルを選択したということは、その時点でワークライフバランスをとったということになる。ワークスタイルを固定的にみるのではなく、常に変わっていくプロセスとしてとらえな

くはならない。

●ワークライフバランスは家庭として実現させている。

女性がワークスタイルを選択することは、個人のワークライフバランスというよりは、家庭としてのそれを実現するための戦略である。なぜなら、女性がワークスタイルを柔軟に変えていく戦略の裏側には、夫は正社員で働くということが前提としてあるからだ。今の社会において、専門職や特殊な職業でないかぎり、女性と男性のワークスタイルを比べると、男性の正社員（フルタイム）というのが、最も収入を得ることができるワークスタイルである。その軸を変えずに、妻のほうが、ワークスタイルを変えることで、家庭全体としてのバランスをとっているのが現実といえるだろう。

収入のためとはいえ、男性がワークスタイルを変えず、女性のほうが合わせるという構造そのものが、女性がワークライフバランスを実現できない大きな原因のひとつになっている。

●個人のワークライフバランスを優先させようとする、家庭を持たないという選択肢が生まれる。

家庭を持つことが、男性に合わせてワークスタイルを変えざるをえないという構造に気づいた女性は、結婚という選択をしなくなる。補完的な調査として、未婚女性にインタビューをしたが、仕事にこだわりを持てば持つほど、自立しようとすればするほど、自分の人生を自分でコントロールしたいと思えば思うほど、結婚すると、男性の選択に依存し、あきらめなければならないことが増えていくという実態がみえてくるので、結婚ができなくなる。逆に、女性の仕事に対する考え方が柔軟であったり、こだわりがなかったりすると、ワークスタイルを男性の状況に合わせて選択し、家庭としてのワークライフバランスはとりやすくなる。つまり、ワークライフバランスがとれているからといって、それが本当の意味での個人の幸せにつながっているかはわからないし、個人の幸せにつながってなくても、家庭の幸せにつながっていれば、幸せであると評価することもありえるのだ。

●ワークライフバランスのとり方には、「モデル家庭」がある。

どのようなワークライフバランスがいいのかという価値判断については、夫婦が育ってきた自分の家庭がモデルとなる。このモデルは、例えば、子育てでいえば、「自分がしてもらったことをしてあげたい」という理想像と、「自分がしてもらえなかったことをしてあげたい」という反面教師の両方の側面があり、このモデルを基準に、自分ができていない、できているという判断をすることになるので、この基準が高ければ、高いほど、夫婦は「自分の親よりもできていない」という罪の意識を持つことになる。

●ワークライフバランスの実現には、短期的な視点と長期的な視点が必要になる。

女性がワークスタイルを選び、そのなかで、夫と協力しながら、家事や子育てをやっていく体制をとるのが、短期的なワークライフバランスの実現だとしたら、そもそものバランスがとれているという基準となっている「モデル家庭」そのものを意識し、疑ってみて、そのモデルを転換し、基準を満たせないという罪悪感を軽減していくことが、長期的なワークライフバランスの実現となる。

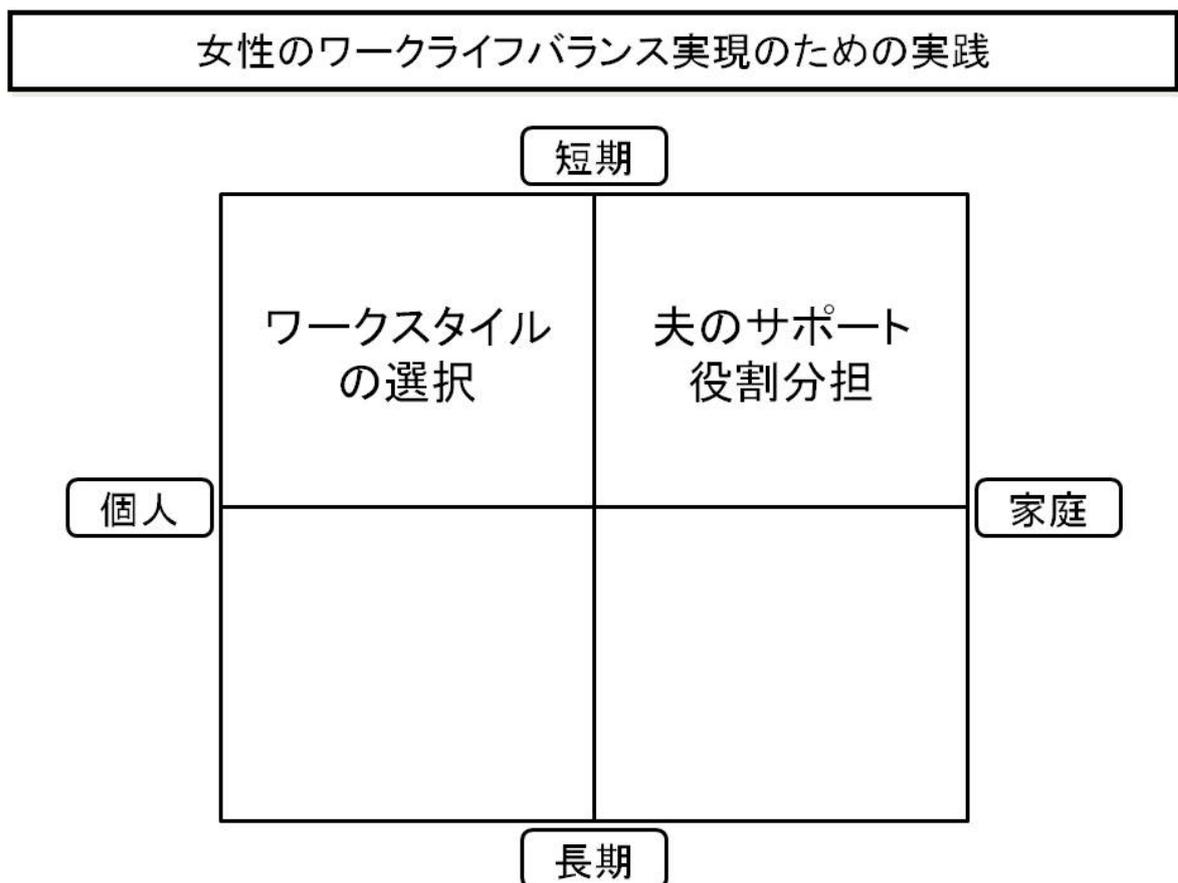
6. まとめ

アンケート調査の二次分析、インタビュー調査の分析を踏まえて、女性のワークライフバランスの阻害要因に関する構造についてまとめる。

子育て世代の女性のワークライフバランスを、家庭、特に夫婦から実現していくためにはどうしたらよいだろうか。そのときに考える枠組みとして、ワークライフバランスを実現するために個人で実践することと、家庭（夫婦）で実践することという立場軸が考えられる。もうひとつは、ワークライフバランスを短期的に実現するのか、長期的な視点に立って実現するのかという時間軸がある。この2つの組み合わせでまとめてみよう。

■短期的なワークライフバランスの実現

図表 6-1



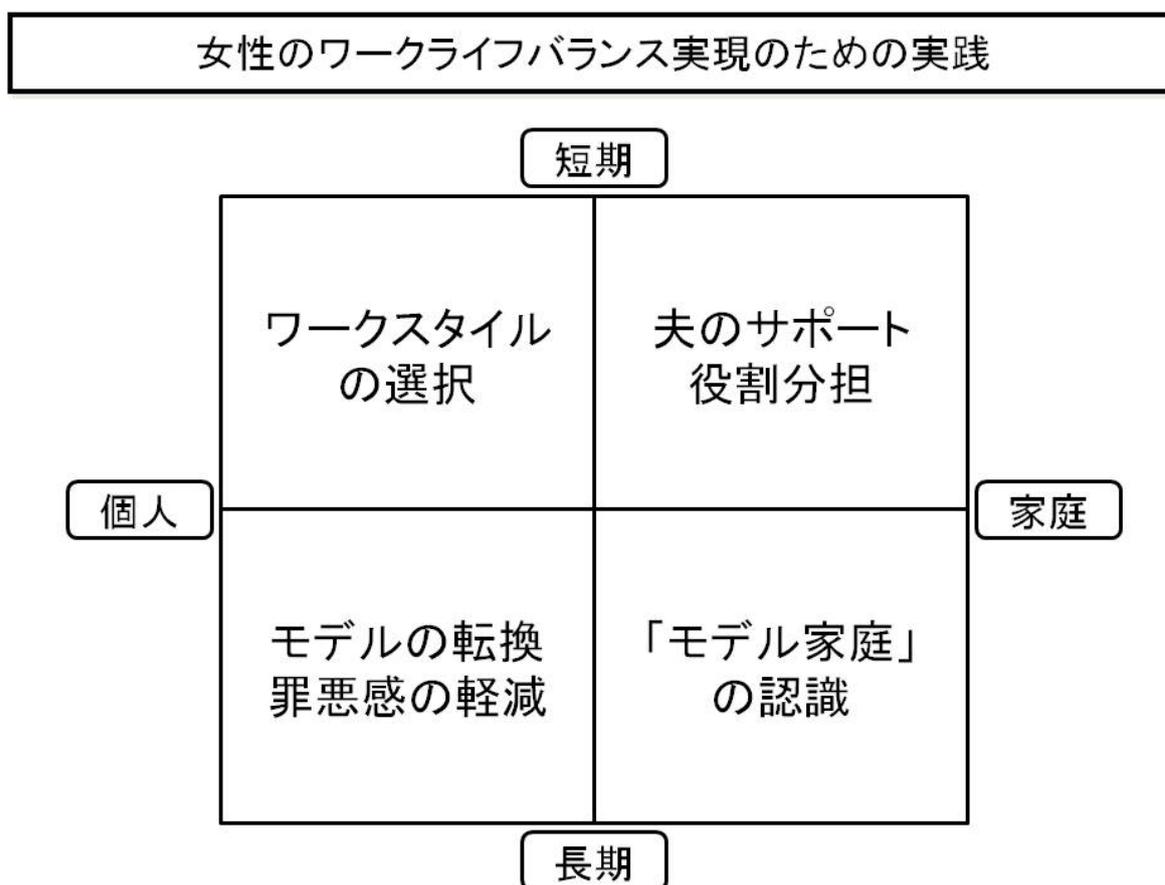
私たちが一般的にイメージするワークライフバランスは、「点」としてのバランス、短期的なバランスである（図表 6-1）。女性の個人レベルでいうと、フルタイム、非正規雇用、専業主婦といったワークスタイルを選択することが第一歩である。ただ、この選択は、男性のワークスタイルを固定化し

た上での選択なので、そもそもそのような方向性でのバランスをとりたくない女性は結婚そのものを躊躇することになる。女性がワークスタイルを選んだ上で、家庭のレベルとしては、夫のサポートがあることがバランス実現の重要な要素となる（ここでの「サポート」は、ワークライフバランス実現に対するサポートという意味である）。特に女性は、家庭においては男性のほうが優遇されているという認識が強いから、夫の関与があるかどうか、生活に対する満足度に大きな影響を与える。または、役割分担を明確にすることもプラスに働く。専業主婦の家庭が、満足度が高く、非正規雇用の家庭が低いのは、仕事と家庭の役割が曖昧だと、結局は女性に家事や子育ての負担が高くなってしまうのだ。

ただ、この短期的なワークライフバランスの実現は、関係性が固定的で、経済状況の変化や気持ちの変化への対応がうまくいかず、真のワークライフバランスとはならない。

■長期的なワークライフバランスの実現

図表 6-2



夫婦にとって、ワークライフバランスをとるモデルとなるのは、自分の家庭である。現在、子育て世代の夫婦が育ってきた家庭は、日本の高度成長期を歩んできた役割分担型の夫婦である。男性が稼ぎ、女性が家庭を支える。右肩上がりの経済成長がもう望めず、自分の親よりも経済的に豊かになれない世代としては、自分の育ってきた家庭を「モデル家庭」として、ワークライフバランスを目指す

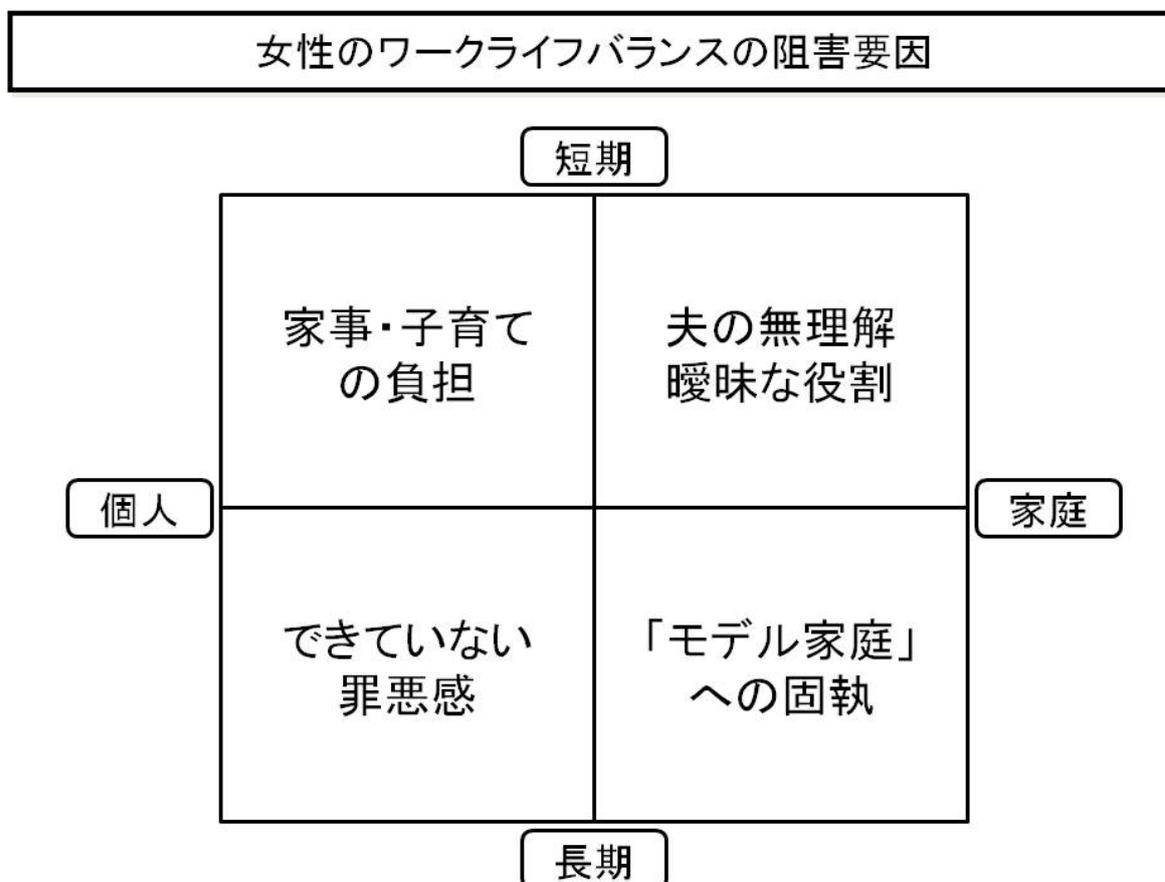
ことは、非現実的である。多くの夫婦が、無意識のうちに、自分の育ってきた家庭をモデルとしており、それが実現できていない自分に罪の意識を感じている。

まずは、夫婦で自分たちがどのような家庭を目指しているのか、何を参照しているかという「モデル家庭」の認識が必要になる。その上で、その「あるべき姿」は本当に自分たちが実現できるものなのか、今の時代にマッチしているのかをとらえなおさなければならない（図表 6-2）。母親が娘に伝えてきたのは、自分がやりたくてできなかったやりがいのある仕事をしてほしいという願いと、自分も経験した結婚と出産も経験してほしいという、場合によっては矛盾する価値観であるし、父親は息子に対して、男性が稼ぎ、家族を養うべきだという価値観以外のものを、仕事が忙しく家庭にいなかったため、提供できなかった。子育て夫婦が参照する「モデル家庭」に内在する価値観はそのような限界をはらんでいる。一度、個人レベルでこのモデルから自由になって、本当の意味での自分らしい家庭の「あるべき姿」へ転換し、いたずらに生み出してきた罪悪感を軽減しなくてはならない。

このような自分たちのワークライフバランスの方向性の前提を疑うこと自体が、長期的なワークライフバランスを実現することにつながる。これは「線」としてのワークライフバランスである。

■女性のワークライフバランスの阻害要因

図表 6-3



最後に、上記で述べてきた女性のワークライフバランスの構造を、阻害要因という本研究の主題からまとめなおそう（図表 6・3）。短期的なワークライフバランスを阻害するのは、どのようなワークスタイルであっても、家事や子育ての負担である。それを最も身近でサポートするはずの夫の無理解や、曖昧な役割分担は、結局は、女性へのしわ寄せとなる。また、長期的なワークライフバランスを阻害するのは、意識的であっても、無意識的であっても、自分が育ってきた「モデル家庭」への固執である。その「あるべき姿」にとらわれてしまうと、親のようにできていない、やりたいのにできないといった罪悪感を生むことになる。このように、時間軸、立場軸からみたワークライフバランス実現の阻害要因の構造に目を向けて、まずは夫婦でその現実に向き合うことが、真のワークライフバランス実現への第一歩になるだろう。

以上

執筆者紹介

松本 祐一（まつもと ゆういち）

多摩大学 経営情報学部 准教授

多摩大学総合研究所 副所長

学生時代にNPOの運営を経験、その後、マーケティング会社で商品開発・市場開発の仕事に従事し、2005年から現職。専門は地域経営論、生活戦略論。地域の創業支援・就労支援プロジェクトに関わっている。

酒井 麻衣子（さかい まいこ）

多摩大学 経営情報学部 准教授

大学卒業後、複数の民間企業でデータ分析コンサルティング、顧客マーケティング業務に携わる。2005年より現職。専門はサービス・マーケティング、博士（経営学）。

付録

問 1)男女の地位：家庭生活	1	問 8)生活時間満足：炊事	15
問 1)男女の地位：職場	2	問 8)生活時間満足：洗濯	16
問 1)男女の地位：学校教育	3	問 8)生活時間満足：掃除	17
問 1)男女の地位：政治の場	4	問 8)生活時間満足：子育て・教育	18
問 1)男女の地位：法律や制度の上	5	問 8)生活時間満足：自分の時間	19
問 1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	6	問 8)生活時間満足：家族との団らん	20
問 1)男女の地位：自治会やNPOなど地域活動の場	7	問 9)女性が職業を持つことについて	21
問 2)社会全体で見た男女の地位	8	問 12)ア 結婚は個人の自由	22
問 4)現在の生活に対する満足度	9	問 12)イ 子供を持つ必要	23
問 6)優先度（希望）	10	問 12)ウ 相手に満足できなければ離婚	24
問 7)優先度（現状）	11	問 13)ア 女性は勤務時間を選べる仕事	25
優先度「希望」と「現状」の一致度と職業パターン	12	問 13)イ 男は家族を養う責任	26
問 8)生活時間満足：仕事・就労	13	問 13)ウ 男は外、女は家庭	27
問 8)生活時間満足：睡眠・休養	14	問 14)望ましい夫婦形態	28

問1)男女の地位：家庭生活

問1)男女の地位：家庭生活と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：家庭生活	度数										職業パターンの%				
		職業パターン					合計	職業パターン					合計			
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規				
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	12	22	16	2	3	55	13.3%	15.5%	9.8%	4.1%	12.0%	11.7%			
		54	70	83	22	10	239	60.0%	49.3%	50.6%	44.9%	40.0%	50.9%			
		20	37	51	25	10	143	22.2%	26.1%	31.1%	51.0%	40.0%	30.4%			
		2	11	13	0	2	28	2.2%	7.7%	7.9%	.0%	8.0%	6.0%			
		2	2	1	0	0	5	2.2%	1.4%	.6%	.0%	.0%	1.1%			
		90	142	164	49	25	470	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	5	3	4	1	1	14	8.1%	4.3%	4.4%	1.9%	6.7%	4.8%			
		16	27	27	12	2	84	25.8%	39.1%	30.0%	22.6%	13.3%	29.1%			
		32	26	54	31	9	152	51.6%	37.7%	60.0%	58.5%	60.0%	52.6%			
		7	11	5	9	3	35	11.3%	15.9%	5.6%	17.0%	20.0%	12.1%			
		2	2	0	0	0	4	3.2%	2.9%	.0%	.0%	.0%	1.4%			
		62	69	90	53	15	289	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	17	25	20	3	4	69	11.2%	11.8%	7.9%	2.9%	10.0%	9.1%			
		70	97	110	34	12	323	46.1%	46.0%	43.3%	33.3%	30.0%	42.6%			
		52	63	105	56	19	295	34.2%	29.9%	41.3%	54.9%	47.5%	38.9%			
		9	22	18	9	5	63	5.9%	10.4%	7.1%	8.8%	12.5%	8.3%			
		4	4	1	0	0	9	2.6%	1.9%	.4%	.0%	.0%	1.2%			
		152	211	254	102	40	759	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

問1)男女の地位：職場

問1)男女の地位：職場と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：職場	度数										職業パターンの%				
		職業パターン					合計	職業パターン					合計			
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規				
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	26	40	47	14	9	136	28.6%	27.8%	28.7%	27.5%	36.0%	28.6%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	5	11	11	2	0	29	8.5%	16.2%	12.1%	3.8%	.0%	10.2%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	31	51	58	16	9	165	20.7%	24.1%	22.7%	15.4%	23.1%	21.7%			
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	42	70	97	19	10	238	46.2%	48.6%	59.1%	37.3%	40.0%	50.1%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	14	18	21	13	3	69	23.7%	26.5%	23.1%	24.5%	21.4%	24.2%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	14	18	21	13	3	69	23.7%	26.5%	23.1%	24.5%	21.4%	24.2%			
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	3	5	6	5	3	22	5.1%	7.4%	6.6%	9.4%	21.4%	7.7%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	1	0	1	2	0	4	1.7%	.0%	1.1%	3.8%	.0%	1.4%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	59	68	91	53	14	285	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	78	104	149	50	18	399	52.0%	49.1%	58.4%	48.1%	46.2%	52.5%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	34	42	38	28	8	150	22.7%	19.8%	14.9%	26.9%	20.5%	19.7%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	112	146	187	78	26	549	39.3%	29.3%	33.5%	35.0%	26.7%	32.2%			
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	2	1	1	2	0	6	1.3%	.5%	.4%	1.9%	.0%	.8%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	150	212	255	104	39	760	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	152	213	256	106	39	760	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

問1)男女の地位：学校教育

問1)男女の地位：学校教育の場と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：学校教育の場	度数										職業パターンの%				
		職業パターン					合計	職業パターン					合計			
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規				
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 合計	3	8	6	4	0	21	3.5%	5.7%	3.7%	8.3%	.0%	4.6%			
		11	24	28	8	7	78	12.8%	17.1%	17.3%	16.7%	29.2%	17.0%			
		70	105	124	36	16	351	81.4%	75.0%	76.5%	75.0%	66.7%	76.3%			
		2	3	4	0	1	10	2.3%	2.1%	2.5%	.0%	4.2%	2.2%			
		86	140	162	48	24	460	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	0	0	1	0	0	1	.0%	.0%	1.1%	.0%	.0%	.4%			
		7	8	11	5	2	33	12.3%	11.8%	12.4%	9.4%	13.3%	11.7%			
		46	59	71	42	11	229	80.7%	86.8%	79.8%	79.2%	73.3%	81.2%			
		4	1	6	4	2	17	7.0%	1.5%	6.7%	7.5%	13.3%	6.0%			
		0	0	0	2	0	2	.0%	.0%	.0%	3.8%	.0%	.7%			
		57	68	89	53	15	282	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	3	8	7	4	0	22	2.1%	3.8%	2.8%	4.0%	.0%	3.0%			
		18	32	39	13	9	111	12.6%	15.4%	15.5%	12.9%	23.1%	15.0%			
		116	164	195	78	27	580	81.1%	78.8%	77.7%	77.2%	69.2%	78.2%			
		6	4	10	4	3	27	4.2%	1.9%	4.0%	4.0%	7.7%	3.6%			
		0	0	0	2	0	2	.0%	.0%	.0%	2.0%	.0%	.3%			
		143	208	251	101	39	742	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

問1)男女の地位：政治の場

問1)男女の地位：政治の場と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：政治の場	職業パターンと性別のクロス表											
		職業パターン					合計	職業パターン					
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	39	64	60	14	14	191	44.3%	45.4%	36.8%	28.0%	56.0%	40.9%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	11	17	18	4	4	57	18.3%	24.6%	20.0%	13.5%	26.7%	19.9%
合計		50	81	78	18	18	248	33.8%	38.6%	30.8%	20.6%	45.0%	32.9%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	38	66	81	8	8	223	43.2%	46.8%	49.7%	60.0%	32.0%	47.8%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	9	9	21	3	3	48	10.2%	6.4%	12.9%	12.0%	12.0%	10.3%
合計		2	1	1	0	0	4	2.3%	.7%	.6%	.0%	.0%	.9%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	0	1	0	0	0	1	.0%	.7%	.0%	.0%	.0%	.2%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	88	141	163	25	25	467	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計		11	17	18	4	4	57	18.3%	24.6%	20.0%	13.5%	26.7%	19.9%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	30	39	41	7	7	138	50.0%	56.5%	45.6%	40.4%	46.7%	48.3%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	18	13	29	4	4	82	30.0%	18.8%	32.2%	34.6%	26.7%	28.7%
合計		1	0	2	0	0	7	1.7%	.0%	2.2%	7.7%	.0%	2.4%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	0	0	0	0	0	2	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.7%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	60	69	90	15	15	286	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計		50	81	78	18	18	248	33.8%	38.6%	30.8%	20.6%	45.0%	32.9%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	68	105	122	15	15	361	45.9%	50.0%	48.2%	50.0%	37.5%	47.9%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	27	22	50	7	7	130	18.2%	10.5%	19.8%	23.5%	17.5%	17.3%
合計		3	1	3	0	0	11	2.0%	.5%	1.2%	3.9%	.0%	1.5%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	0	1	0	0	0	3	.0%	.5%	.0%	2.0%	.0%	.4%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	148	210	253	40	40	753	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問1)男女の地位：法律や制度の上

問1)男女の地位：法律や制度の上と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：法律や制度の上	度数						職業パターンの%					
		職業パターン						職業パターン					
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	19	30	17	5	2	73	21.6%	21.3%	10.6%	10.2%	8.3%	15.8%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	3	4	2	1	1	11	4.9%	5.9%	2.2%	1.9%	6.7%	3.8%
合計		22	34	19	6	3	84	14.8%	16.3%	7.6%	5.9%	7.7%	11.2%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	36	66	76	19	16	213	40.9%	46.8%	47.5%	38.8%	66.7%	46.1%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	31	36	59	19	5	150	35.2%	25.5%	36.9%	38.8%	20.8%	32.5%
合計		2	9	7	6	1	25	2.3%	6.4%	4.4%	12.2%	4.2%	5.4%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	0	0	1	0	0	1	.0%	.0%	.6%	.0%	.0%	.2%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	88	141	160	49	24	462	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計		3	4	2	1	1	11	4.9%	5.9%	2.2%	1.9%	6.7%	3.8%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	17	27	29	6	4	83	27.9%	39.7%	32.2%	11.5%	26.7%	29.0%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	35	28	45	32	6	146	57.4%	41.2%	50.0%	61.5%	40.0%	51.0%
合計		6	9	13	7	4	39	9.8%	13.2%	14.4%	13.5%	26.7%	13.6%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	0	0	1	6	0	7	.0%	.0%	1.1%	11.5%	.0%	2.4%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	61	68	90	52	15	286	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計		22	34	19	6	3	84	14.8%	16.3%	7.6%	5.9%	7.7%	11.2%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	53	93	105	25	20	296	35.6%	44.5%	42.0%	24.8%	51.3%	39.6%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	66	64	104	51	11	296	44.3%	30.6%	41.6%	50.5%	28.2%	39.6%
合計		8	18	20	13	5	64	5.4%	8.6%	8.0%	12.9%	12.8%	8.6%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	0	0	2	6	0	8	.0%	.0%	.8%	5.9%	.0%	1.1%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	149	209	250	101	39	748	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど

問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなどと職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	度数					職業パターンの%					
		職業パターン					職業パターン					
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	53	41	14	9	34.4%	37.6%	25.2%	27.5%	36.0%	31.5%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	51	76	103	31	15	56.7%	53.9%	63.2%	60.8%	60.0%	58.7%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	7	8	16	5	1	7.8%	5.7%	9.8%	9.8%	4.0%	7.9%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	1	4	3	1	0	1.1%	2.8%	1.8%	2.0%	.0%	1.9%
	合計	90	141	163	51	25	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	9	12	13	3	2	15.0%	17.4%	14.3%	5.7%	13.3%	13.5%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	37	46	58	25	8	61.7%	66.7%	63.7%	47.2%	53.3%	60.4%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	12	6	16	17	3	20.0%	8.7%	17.6%	32.1%	20.0%	18.8%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	0	5	4	7	2	.0%	7.2%	4.4%	13.2%	13.3%	6.3%
	合計	2	0	0	1	0	3.3%	.0%	.0%	1.9%	.0%	1.0%
	合計	60	69	91	53	15	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	40	65	54	17	11	26.7%	31.0%	21.3%	16.3%	27.5%	24.7%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	88	122	161	56	23	58.7%	58.1%	63.4%	53.8%	57.5%	59.4%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	19	14	32	22	4	12.7%	6.7%	12.6%	21.2%	10.0%	12.0%
	問1)男女の地位：社会通念・慣習・しきたりなど	1	9	7	8	2	.7%	4.3%	2.8%	7.7%	5.0%	3.6%
	合計	2	0	0	1	0	1.3%	.0%	.0%	1.0%	.0%	.4%
	合計	150	210	254	104	40	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問1)男女の地位：自治会やNPOなど地域活動の場

問1)男女の地位：自治会やNPOなど地域活動の場と職業パターンと性別のクロス表

性別	問1)男女の地位：自治会やNPOなど地域活動の場	度数						職業パターンの%					合計
		職業パターン			職業パターン			職業パターン					
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	5	16	10	1	1	33	5.8%	11.5%	6.2%	2.0%	4.0%	7.2%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	5	22	17	0	0	9	8.8%	2.9%	2.2%	.0%	.0%	3.2%
合計		10	18	12	1	1	42	7.0%	8.7%	4.8%	1.0%	2.5%	5.7%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	40	56	61	6	6	181	46.5%	40.3%	37.9%	36.7%	24.0%	39.3%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	40	39	80	27	16	228	45.3%	47.5%	49.7%	55.1%	64.0%	49.6%
合計		80	95	141	53	32	460	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	48	78	78	25	6	235	33.6%	37.7%	31.1%	24.5%	15.0%	31.6%
男性	男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている 合計	79	105	143	69	29	425	55.2%	50.7%	57.0%	67.6%	72.5%	57.2%
合計		127	183	221	94	35	743	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問2)社会全体で見た男女の地位

問2)社会全体で見た男女の地位の平等と職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターンの %											
	職業パターン					合計	職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	13	20	13	9	4	59	14.4%	14.0%	7.8%	18.4%	16.0%	12.5%
	66	108	124	29	20	347	73.3%	75.5%	74.7%	59.2%	80.0%	73.4%
	10	9	20	10	1	50	11.1%	6.3%	12.0%	20.4%	4.0%	10.6%
	1	6	9	1	0	17	1.1%	4.2%	5.4%	2.0%	.0%	3.6%
合計	90	143	166	49	25	473	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	2	4	3	3	0	12	3.2%	6.1%	3.4%	5.7%	.0%	4.3%
	37	41	61	25	7	171	59.7%	62.1%	70.1%	47.2%	50.0%	60.6%
	16	16	16	16	5	69	25.8%	24.2%	18.4%	30.2%	35.7%	24.5%
	6	5	7	7	2	27	9.7%	7.6%	8.0%	13.2%	14.3%	9.6%
合計	1	0	0	2	0	3	1.6%	.0%	.0%	3.8%	.0%	1.1%
	62	66	87	53	14	282	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	15	24	16	12	4	71	9.9%	11.5%	6.3%	11.8%	10.3%	9.4%
	103	149	185	54	27	518	67.8%	71.3%	73.1%	52.9%	69.2%	68.6%
	26	25	36	26	6	119	17.1%	12.0%	14.2%	25.5%	15.4%	15.8%
	7	11	16	8	2	44	4.6%	5.3%	6.3%	7.8%	5.1%	5.8%
合計	1	0	0	2	0	3	.7%	.0%	.0%	2.0%	.0%	.4%
	152	209	253	102	39	755	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問4)現在の生活に対する満足度

問4)現在の生活に対する満足度と職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターン												合計			
	女性フルタイム			女性非正規			専業主婦			未婚フルタイム					未婚非正規	
	度数	職業パターンの%	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	度数	職業パターンの%
女性	問4)現在の生活に対する満足度	13	14.3%	11	7.7%	28	16.8%	3	5.9%	0	.0%	55	11.5%	55	11.5%	11.5%
		55	60.4%	87	60.8%	102	61.1%	32	62.7%	9	36.0%	285	59.7%	285	59.7%	59.7%
		14	15.4%	13	9.1%	17	10.2%	6	11.8%	4	16.0%	54	11.3%	54	11.3%	11.3%
		7	7.7%	19	13.3%	11	6.6%	5	9.8%	5	20.0%	47	9.9%	47	9.9%	9.9%
	満足していない	2	2.2%	13	9.1%	9	5.4%	5	9.8%	7	28.0%	36	7.5%	36	7.5%	7.5%
	合計	91	100.0%	143	100.0%	167	100.0%	51	100.0%	25	100.0%	477	100.0%	477	100.0%	100.0%
男性	問4)現在の生活に対する満足度	6	9.7%	3	4.2%	9	9.9%	0	.0%	1	6.7%	19	6.5%	19	6.5%	6.5%
		28	45.2%	45	63.4%	49	53.8%	30	54.5%	4	26.7%	156	53.1%	156	53.1%	53.1%
		10	16.1%	10	14.1%	9	9.9%	7	12.7%	0	.0%	36	12.2%	36	12.2%	12.2%
		12	19.4%	10	14.1%	17	18.7%	11	20.0%	6	40.0%	56	19.0%	56	19.0%	19.0%
	満足していない	6	9.7%	3	4.2%	7	7.7%	7	12.7%	4	26.7%	27	9.2%	27	9.2%	9.2%
	合計	62	100.0%	71	100.0%	91	100.0%	55	100.0%	15	100.0%	294	100.0%	294	100.0%	100.0%
合計	問4)現在の生活に対する満足度	19	12.4%	14	6.5%	37	14.3%	3	2.8%	1	2.5%	74	9.6%	74	9.6%	9.6%
		83	54.2%	132	61.7%	151	58.5%	62	58.5%	13	32.5%	441	57.2%	441	57.2%	57.2%
		24	15.7%	23	10.7%	26	10.1%	13	12.3%	4	10.0%	90	11.7%	90	11.7%	11.7%
		19	12.4%	29	13.6%	28	10.9%	16	15.1%	11	27.5%	103	13.4%	103	13.4%	13.4%
	満足していない	8	5.2%	16	7.5%	16	6.2%	12	11.3%	11	27.5%	63	8.2%	63	8.2%	8.2%
	合計	153	100.0%	214	100.0%	258	100.0%	106	100.0%	40	100.0%	771	100.0%	771	100.0%	100.0%

問6)優先度(希望)

問6)優先度(希望)と職業パターンと性別のクロス表

性別	問6)優先度(希望)	度数										職業パターンの%							
		職業パターン					職業パターン					職業パターン							
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計
女性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」を優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	2	1	0	4	1	8	2.2%	.7%	.0%	7.8%	4.0%	1.7%	22.0%	32.2%	48.5%	11.8%	20.0%	33.1%
男性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」を優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	10	18	1	9	2	53	16.1%	25.4%	19.8%	9.1%	13.3%	18.0%	4.8%	1.4%	1.1%	16.4%	13.3%	5.4%
合計		91	143	167	51	25	477	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」を優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	4	6	8	5	2	25	2.6%	2.8%	3.1%	4.7%	5.0%	3.2%	19.6%	29.9%	38.4%	10.4%	17.5%	27.4%
男性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」を優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	30	64	99	11	7	211	9.6%	19.6%	29.9%	10.4%	17.5%	27.4%	2.6%	1.4%	2.3%	12.3%	15.0%	4.2%
合計		64	77	67	29	9	246	41.8%	36.0%	26.0%	27.4%	22.5%	31.9%	2.6%	1.9%	.8%	13.2%	10.0%	3.6%
女性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	15	20	41	9	6	91	9.8%	9.3%	15.9%	8.5%	15.0%	11.8%	9.8%	9.3%	15.9%	8.5%	15.0%	17.1%
男性	「仕事」を優先したい 「家庭生活」を優先したい 「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい わからない	32	38	33	23	6	132	20.9%	17.8%	12.8%	21.7%	15.0%	17.1%	20.9%	17.8%	12.8%	21.7%	15.0%	17.1%
合計		153	214	258	106	40	771	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問7)優先度(現状)

問7)優先度(現状)と職業パターンと性別のクロス表

性別	問7)優先度(現状)	度数										職業パターンの%										
		職業パターン					職業パターン					女性フルタイム	女性非正規	未婚フルタイム	未婚非正規	合計						
		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規											
女性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」を優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	29	20	2	28	10	89	31.9%	14.0%	1.2%	54.9%	40.0%	18.7%	43.3%	2.7%	19.1%	2.5%	8.8%	3.4%	1.5%	100.0%	
男性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」を優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	25	35	42	28	5	135	40.3%	49.3%	46.2%	50.9%	33.3%	11.3%	10.5%	3.7%	27.6%	4.4%	1.0%	5.4%	1.4%	100.0%	
合計		54	55	44	56	15	224	35.3%	25.7%	17.1%	52.8%	37.5%	15.7%	30.8%	3.1%	22.3%	3.2%	5.8%	4.2%	1.4%	100.0%	
女性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」を優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	24	58	148	1	6	237	15.7%	27.1%	57.6%	9%	15.0%	1.3%	10.5%	3.7%	27.6%	4.4%	1.0%	5.4%	1.4%	100.0%	
男性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」を優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	2	4	3	6	9	24	1.3%	1.9%	1.2%	5.7%	22.5%	35.3%	32.2%	12.1%	10.0%	7.5%	2.5%	0%	5.0%	100.0%	
合計		54	69	31	14	4	172	35.3%	32.2%	12.1%	13.2%	22.3%	1.3%	2.3%	0%	14.2%	7.5%	2.5%	0%	5.0%	100.0%	
女性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	2	5	0	15	3	25	1.3%	2.3%	0%	14.2%	7.5%	3.3%	3.7%	10.1%	4.7%	6.6%	1.9%	0%	5.0%	100.0%	
男性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	5	8	26	5	1	45	3.3%	3.7%	10.1%	4.7%	6.6%	5.9%	5.1%	1.9%	6.6%	1.9%	0%	5.0%	1.4%	100.0%	
合計		9	11	5	7	0	32	5.9%	5.1%	1.9%	6.6%	1.9%	2.0%	2.0%	1.9%	6.6%	1.9%	0%	5.0%	1.4%	100.0%	
女性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	3	4	0	2	2	11	2.0%	1.9%	0%	1.9%	5.0%	100.0%	27.1%	27.1%	10.0%	37.5%	15.0%	15.0%	5.0%	100.0%	
男性	「仕事」を優先している 「家庭生活」を優先している 「地域・個人の生活」を優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している わからない	153	214	257	106	40	770	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	49.3%	9.9%	16.5%	1.8%	50.9%	33.3%	6.7%	10.5%	3.7%	100.0%

優先度「希望」と「現状」と「一致度と職業パターン

職業パターンの「希望」と「現状」の一致度と職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターン												合計	
	女性フルタイム		女性非正規		専業主婦		未婚フルタイム		未婚非正規				度数	職業パターンの%
	度数	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	度数	職業パターンの%	度数	職業パターンの%				
女性	完全一致	31	34.4%	59	42.1%	93	56.4%	12	24.0%	8	34.8%	203	43.4%	
	一部一致 (ワーク優先)	18	20.0%	11	7.9%	2	1.2%	12	24.0%	6	26.1%	49	10.5%	
	一部一致 (ライフ優先)	14	15.6%	32	22.9%	65	39.4%	5	10.0%	3	13.0%	119	25.4%	
	一部一致 (両方優先)	18	20.0%	28	20.0%	1	.6%	8	16.0%	2	8.7%	57	12.2%	
	不一致 (ワーク優先)	9	10.0%	8	5.7%	0	.0%	12	24.0%	3	13.0%	32	6.8%	
	不一致 (ライフ優先)	0	.0%	1	.7%	4	2.4%	1	2.0%	1	4.3%	7	1.5%	
	不一致 (両方優先)	0	.0%	1	.7%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	1	.2%	
	合計	90	100.0%	140	100.0%	165	100.0%	50	100.0%	23	100.0%	468	100.0%	
男性	完全一致	16	26.7%	18	26.1%	35	38.9%	16	30.2%	4	26.7%	89	31.0%	
	一部一致 (ワーク優先)	22	36.7%	20	29.0%	31	34.4%	18	34.0%	1	6.7%	92	32.1%	
	一部一致 (ライフ優先)	4	6.7%	5	7.2%	6	6.7%	1	1.9%	4	26.7%	20	7.0%	
	一部一致 (両方優先)	15	25.0%	15	21.7%	12	13.3%	9	17.0%	2	13.3%	53	18.5%	
	不一致 (ワーク優先)	2	3.3%	10	14.5%	4	4.4%	8	15.1%	3	20.0%	27	9.4%	
	不一致 (ライフ優先)	1	1.7%	1	1.4%	2	2.2%	1	1.9%	1	6.7%	6	2.1%	
	不一致 (両方優先)	60	100.0%	69	100.0%	90	100.0%	53	100.0%	15	100.0%	287	100.0%	
	合計	47	31.3%	77	36.8%	128	50.2%	28	27.2%	12	31.6%	292	38.7%	
合計	完全一致	40	26.7%	31	14.8%	33	12.9%	30	29.1%	7	18.4%	141	18.7%	
	一部一致 (ワーク優先)	18	12.0%	37	17.7%	71	27.8%	6	5.8%	7	18.4%	139	18.4%	
	一部一致 (ライフ優先)	33	22.0%	43	20.6%	13	5.1%	17	16.5%	4	10.5%	110	14.6%	
	一部一致 (両方優先)	11	7.3%	18	8.6%	4	1.6%	20	19.4%	6	15.8%	59	7.8%	
	不一致 (ワーク優先)	1	.7%	2	1.0%	6	2.4%	2	1.9%	2	5.3%	13	1.7%	
	不一致 (ライフ優先)	0	.0%	1	.5%	0	.0%	0	.0%	0	.0%	1	.1%	
	不一致 (両方優先)	150	100.0%	209	100.0%	255	100.0%	103	100.0%	38	100.0%	755	100.0%	
	合計													

問8)生活時間満足:仕事・就労

職業パターンと問8)時間満足【平日】：仕事・就労と性別のクロス表

性別	職業パターン	度数	問8)時間満足【平日】：仕事・就労			合計
			現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業パターン	度数	29	10	47	86
		職業パターンの%	33.7%	11.6%	54.7%	100.0%
	女性非正規	度数	80	30	28	138
		職業パターンの%	58.0%	21.7%	20.3%	100.0%
	専業主婦	度数	58	26	14	98
		職業パターンの%	59.2%	26.5%	14.3%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	18	2	27	47
		職業パターンの%	38.3%	4.3%	57.4%	100.0%
	未婚非正規	度数	15	6	4	25
		職業パターンの%	60.0%	24.0%	16.0%	100.0%
合計	度数	200	74	120	394	
	職業パターンの%	50.8%	18.8%	30.5%	100.0%	
男性	職業パターン	度数	30	2	29	61
		職業パターンの%	49.2%	3.3%	47.5%	100.0%
	女性非正規	度数	26	3	40	69
		職業パターンの%	37.7%	4.3%	58.0%	100.0%
	専業主婦	度数	47	2	42	91
		職業パターンの%	51.6%	2.2%	46.2%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	21	3	26	50
		職業パターンの%	42.0%	6.0%	52.0%	100.0%
	未婚非正規	度数	8	3	2	13
		職業パターンの%	61.5%	23.1%	15.4%	100.0%
合計	度数	132	13	139	284	
	職業パターンの%	46.5%	4.6%	48.9%	100.0%	
合計	職業パターン	度数	59	12	76	147
		職業パターンの%	40.1%	8.2%	51.7%	100.0%
	女性非正規	度数	106	33	68	207
		職業パターンの%	51.2%	15.9%	32.9%	100.0%
	専業主婦	度数	105	28	56	189
		職業パターンの%	55.6%	14.8%	29.6%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	39	5	53	97
		職業パターンの%	40.2%	5.2%	54.6%	100.0%
	未婚非正規	度数	23	9	6	38
		職業パターンの%	60.5%	23.7%	15.8%	100.0%
合計	度数	332	87	259	678	
	職業パターンの%	49.0%	12.8%	38.2%	100.0%	

職業パターンと問8)時間満足【休日】：仕事・就労と性別のクロス表

性別	職業パターン	度数	問8)時間満足【休日】：仕事・就労			合計
			現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業パターン	度数	59	4	13	76
		職業パターンの%	77.6%	5.3%	17.1%	100.0%
	女性非正規	度数	96	8	18	122
		職業パターンの%	78.7%	6.6%	14.8%	100.0%
	専業主婦	度数	69	11	11	91
		職業パターンの%	75.8%	12.1%	12.1%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	33	1	6	40
		職業パターンの%	82.5%	2.5%	15.0%	100.0%
	未婚非正規	度数	20	2	1	23
		職業パターンの%	87.0%	8.7%	4.3%	100.0%
合計	度数	277	26	49	352	
	職業パターンの%	78.7%	7.4%	13.9%	100.0%	
男性	職業パターン	度数	44	3	6	53
		職業パターンの%	83.0%	5.7%	11.3%	100.0%
	女性非正規	度数	40	5	17	62
		職業パターンの%	64.5%	8.1%	27.4%	100.0%
	専業主婦	度数	58	4	11	73
		職業パターンの%	79.5%	5.5%	15.1%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	40	2	6	48
		職業パターンの%	83.3%	4.2%	12.5%	100.0%
	未婚非正規	度数	8	2	0	10
		職業パターンの%	80.0%	20.0%	0%	100.0%
合計	度数	190	16	40	246	
	職業パターンの%	77.2%	6.5%	16.3%	100.0%	
合計	職業パターン	度数	103	7	19	129
		職業パターンの%	79.8%	5.4%	14.7%	100.0%
	女性非正規	度数	136	13	35	184
		職業パターンの%	73.9%	7.1%	19.0%	100.0%
	専業主婦	度数	127	15	22	164
		職業パターンの%	77.4%	9.1%	13.4%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	73	3	12	88
		職業パターンの%	83.0%	3.4%	13.6%	100.0%
	未婚非正規	度数	28	4	1	33
		職業パターンの%	84.8%	12.1%	3.0%	100.0%
合計	度数	467	42	89	598	
	職業パターンの%	78.1%	7.0%	14.9%	100.0%	

問8)生活時間満足：睡眠・休養

職業パターンと問8)時間満足【平日】：睡眠・休養と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 度数	女性非正規 度数	専業主婦 度数	未婚フルタイム 度数	未婚非正規 度数	合計	問8)時間満足【平日】：睡眠・休養		
								現状に満足	増やしたい	減らしたい
女性	職業パターン	27	54	1	82	32.9%	65.9%	1.2%	100.0%	
	女性フルタイム	55	83	3	141	39.0%	58.9%	2.1%	100.0%	
	女性非正規	92	60	1	153	60.1%	39.2%	.7%	100.0%	
	専業主婦	14	33	1	48	29.2%	68.8%	2.1%	100.0%	
	未婚フルタイム	10	14	0	24	41.7%	58.3%	.0%	100.0%	
	未婚非正規	198	244	6	448	44.2%	54.5%	1.3%	100.0%	
合計		27	31	0	58	46.6%	53.4%	.0%	100.0%	
男性	職業パターン	31	36	0	67	46.3%	53.7%	.0%	100.0%	
	女性フルタイム	48	43	0	91	52.7%	47.3%	.0%	100.0%	
	女性非正規	26	23	0	49	53.1%	46.9%	.0%	100.0%	
	専業主婦	8	5	1	14	57.1%	35.7%	7.1%	100.0%	
	未婚フルタイム	140	138	1	279	50.2%	49.5%	.4%	100.0%	
	未婚非正規	54	85	1	140	38.6%	60.7%	.7%	100.0%	
合計		86	119	3	208	41.3%	57.2%	1.4%	100.0%	
合計	職業パターン	140	103	1	244	57.4%	42.2%	.4%	100.0%	
	女性フルタイム	40	56	1	97	41.2%	57.7%	1.0%	100.0%	
	女性非正規	18	19	1	38	47.4%	50.0%	2.6%	100.0%	
	専業主婦	338	382	7	727	46.5%	52.5%	1.0%	100.0%	
	未婚フルタイム									
	未婚非正規									
合計										

職業パターンと問8)時間満足【休日】：睡眠・休養と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 度数	女性非正規 度数	専業主婦 度数	未婚フルタイム 度数	未婚非正規 度数	合計	問8)時間満足【休日】：睡眠・休養		
								現状に満足	増やしたい	減らしたい
女性	職業パターン	56	27	0	83	67.5%	32.5%	.0%	100.0%	
	女性フルタイム	84	54	1	139	60.4%	38.8%	.7%	100.0%	
	女性非正規	115	40	0	155	74.2%	25.8%	.0%	100.0%	
	専業主婦	35	9	4	48	72.9%	18.8%	8.3%	100.0%	
	未婚フルタイム	20	4	1	25	80.0%	16.0%	4.0%	100.0%	
	未婚非正規	310	134	6	450	68.9%	29.8%	1.3%	100.0%	
合計		46	10	0	56	82.1%	17.9%	.0%	100.0%	
男性	職業パターン	51	16	1	68	75.0%	23.5%	1.5%	100.0%	
	女性フルタイム	68	19	2	89	76.4%	21.3%	2.2%	100.0%	
	女性非正規	39	9	2	50	78.0%	18.0%	4.0%	100.0%	
	専業主婦	12	1	1	14	85.7%	7.1%	7.1%	100.0%	
	未婚フルタイム	216	55	6	277	78.0%	19.9%	2.2%	100.0%	
	未婚非正規	102	37	0	139	73.4%	26.6%	.0%	100.0%	
合計		135	70	2	207	65.2%	33.8%	1.0%	100.0%	
合計	職業パターン	183	59	2	244	75.0%	24.2%	.8%	100.0%	
	女性フルタイム	74	18	6	98	75.5%	18.4%	6.1%	100.0%	
	女性非正規	32	5	2	39	82.1%	12.8%	5.1%	100.0%	
	専業主婦	526	189	12	727	72.4%	26.0%	1.7%	100.0%	
	未婚フルタイム									
	未婚非正規									
合計										

問8)生活時間満足：炊事

職業パターンと問8)時間満足【平日】：炊事と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 職業パターンの %	女性非正規 職業パターンの %	専業主婦 職業パターンの %	未婚フルタイム 職業パターンの %	未婚非正規 職業パターンの %	問8)時間満足【平日】：炊事		合計
							現状に満足	増やしたい	
女性	職業パターン	45	19	18	82	54.9%	23.2%	22.0%	100.0%
	女性非正規	83	9	41	133	62.4%	6.8%	30.8%	100.0%
	専業主婦	106	6	41	153	69.3%	3.9%	26.8%	100.0%
	未婚フルタイム	26	14	2	42	61.9%	33.3%	4.8%	100.0%
	未婚非正規	19	3	1	23	82.6%	13.0%	4.3%	100.0%
	合計	279	51	103	433	64.4%	11.8%	23.8%	100.0%
男性	職業パターン	30	10	4	44	68.2%	22.7%	9.1%	100.0%
	女性非正規	48	5	2	55	87.3%	9.1%	3.6%	100.0%
	専業主婦	51	10	1	62	82.3%	16.1%	1.6%	100.0%
	未婚フルタイム	33	9	2	44	75.0%	20.5%	4.5%	100.0%
	未婚非正規	11	1	1	13	84.6%	7.7%	7.7%	100.0%
	合計	173	35	10	218	79.4%	16.1%	4.6%	100.0%
合計	職業パターン	75	29	22	126	59.5%	23.0%	17.5%	100.0%
女性	職業パターン	131	14	43	188	69.7%	7.4%	22.9%	100.0%
	女性非正規	157	16	42	215	73.0%	7.4%	19.5%	100.0%
	専業主婦	59	23	4	86	68.6%	26.7%	4.7%	100.0%
	未婚フルタイム	30	4	2	36	83.3%	11.1%	5.6%	100.0%
	未婚非正規	452	86	113	651	69.4%	13.2%	17.4%	100.0%
	合計	651	113	174	938	69.4%	13.2%	17.4%	100.0%

職業パターンと問8)時間満足【休日】：炊事と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 職業パターンの %	女性非正規 職業パターンの %	専業主婦 職業パターンの %	未婚フルタイム 職業パターンの %	未婚非正規 職業パターンの %	問8)時間満足【休日】：炊事		合計
							現状に満足	増やしたい	
女性	職業パターン	52	9	14	75	69.3%	12.0%	18.7%	100.0%
	女性非正規	81	3	42	126	64.3%	2.4%	33.3%	100.0%
	専業主婦	97	3	40	140	69.3%	2.1%	28.6%	100.0%
	未婚フルタイム	34	6	2	42	81.0%	14.3%	4.8%	100.0%
	未婚非正規	20	4	0	24	83.3%	16.7%	.0%	100.0%
	合計	284	25	98	407	69.8%	6.1%	24.1%	100.0%
男性	職業パターン	35	5	2	42	83.3%	11.9%	4.8%	100.0%
	女性非正規	45	6	1	52	86.5%	11.5%	1.9%	100.0%
	専業主婦	49	14	0	63	77.8%	22.2%	.0%	100.0%
	未婚フルタイム	37	3	2	42	88.1%	7.1%	4.8%	100.0%
	未婚非正規	9	2	1	12	75.0%	16.7%	8.3%	100.0%
	合計	175	30	6	211	82.9%	14.2%	2.8%	100.0%
合計	職業パターン	87	14	16	117	74.4%	12.0%	13.7%	100.0%
女性	職業パターン	126	9	43	178	70.8%	5.1%	24.2%	100.0%
	女性非正規	146	17	40	203	71.9%	8.4%	19.7%	100.0%
	専業主婦	71	9	4	84	84.5%	10.7%	4.8%	100.0%
	未婚フルタイム	29	6	1	36	80.6%	16.7%	2.8%	100.0%
	未婚非正規	459	55	104	618	74.3%	8.9%	16.8%	100.0%
	合計	618	104	168	890	74.3%	8.9%	16.8%	100.0%

問8)生活時間満足：洗濯

性別	職業ハタール	度数	問8)時間満足【平日】：洗濯			合計
			現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業ハタール	度数	61	6	12	79
		職業ハタールの%	77.2%	7.6%	15.2%	100.0%
	女性非正規	度数	90	3	38	131
		職業ハタールの%	68.7%	2.3%	29.0%	100.0%
	専業主婦	度数	125	1	26	152
		職業ハタールの%	82.2%	.7%	17.1%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	32	6	2	40
		職業ハタールの%	80.0%	15.0%	5.0%	100.0%
	未婚非正規	度数	19	2	1	22
		職業ハタールの%	86.4%	9.1%	4.5%	100.0%
合計	度数	327	18	79	424	
	職業ハタールの%	77.1%	4.2%	18.6%	100.0%	
男性	職業ハタール	度数	32	5	4	41
		職業ハタールの%	78.0%	12.2%	9.8%	100.0%
	女性非正規	度数	50	2	0	52
		職業ハタールの%	96.2%	3.8%	.0%	100.0%
	専業主婦	度数	51	9	2	62
		職業ハタールの%	82.3%	14.5%	3.2%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	32	4	3	39
		職業ハタールの%	82.1%	10.3%	7.7%	100.0%
	未婚非正規	度数	10	1	2	13
		職業ハタールの%	76.9%	7.7%	15.4%	100.0%
合計	度数	175	21	11	207	
	職業ハタールの%	84.5%	10.1%	5.3%	100.0%	
合計	職業ハタール	度数	93	11	16	120
		職業ハタールの%	77.5%	9.2%	13.3%	100.0%
	女性非正規	度数	140	5	38	183
		職業ハタールの%	76.5%	2.7%	20.8%	100.0%
	専業主婦	度数	176	10	28	214
		職業ハタールの%	82.2%	4.7%	13.1%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	64	10	5	79
		職業ハタールの%	81.0%	12.7%	6.3%	100.0%
	未婚非正規	度数	29	3	3	35
		職業ハタールの%	82.9%	8.6%	8.6%	100.0%
合計	度数	502	39	90	631	
	職業ハタールの%	79.6%	6.2%	14.3%	100.0%	

性別	職業ハタール	度数	問8)時間満足【休日】：洗濯			合計
			現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業ハタール	度数	59	3	12	74
		職業ハタールの%	79.7%	4.1%	16.2%	100.0%
	女性非正規	度数	89	1	37	127
		職業ハタールの%	70.1%	.8%	29.1%	100.0%
	専業主婦	度数	107	0	32	139
		職業ハタールの%	77.0%	.0%	23.0%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	36	2	4	42
		職業ハタールの%	85.7%	4.8%	9.5%	100.0%
	未婚非正規	度数	21	1	2	24
		職業ハタールの%	87.5%	4.2%	8.3%	100.0%
合計	度数	312	7	87	406	
	職業ハタールの%	76.8%	1.7%	21.4%	100.0%	
男性	職業ハタール	度数	37	3	3	43
		職業ハタールの%	86.0%	7.0%	7.0%	100.0%
	女性非正規	度数	49	3	1	53
		職業ハタールの%	92.5%	5.7%	1.9%	100.0%
	専業主婦	度数	54	6	3	63
		職業ハタールの%	85.7%	9.5%	4.8%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	36	1	5	42
		職業ハタールの%	85.7%	2.4%	11.9%	100.0%
	未婚非正規	度数	9	1	1	11
		職業ハタールの%	81.8%	9.1%	9.1%	100.0%
合計	度数	185	14	13	212	
	職業ハタールの%	87.3%	6.6%	6.1%	100.0%	
合計	職業ハタール	度数	96	6	15	117
		職業ハタールの%	82.1%	5.1%	12.8%	100.0%
	女性非正規	度数	138	4	38	180
		職業ハタールの%	76.7%	2.2%	21.1%	100.0%
	専業主婦	度数	161	6	35	202
		職業ハタールの%	79.7%	3.0%	17.3%	100.0%
	未婚フルタイム	度数	72	3	9	84
		職業ハタールの%	85.7%	3.6%	10.7%	100.0%
	未婚非正規	度数	30	2	3	35
		職業ハタールの%	85.7%	5.7%	8.6%	100.0%
合計	度数	487	21	100	618	
	職業ハタールの%	80.4%	3.4%	16.2%	100.0%	

問8)生活時間満足：掃除

性別		問8)時間満足【平日】：掃除と性別のクロス表		問8)時間満足【休日】：掃除		合計
		現状に満足	増やしたい	減らしたい	減らさない	
女性	職業ハタチン	40	33	4	77	
	女性フルタイム	51.9%	42.9%	5.2%	100.0%	
	職業ハタチンの %	75	28	23	126	
	女性非正規	59.5%	22.2%	18.3%	100.0%	
	職業ハタチンの %	115	20	17	152	
	専業主婦	75.7%	13.2%	11.2%	100.0%	
	職業ハタチンの %	26	10	0	36	
	未婚フルタイム	72.2%	27.8%	.0%	100.0%	
	職業ハタチンの %	16	5	0	21	
	未婚非正規	76.2%	23.8%	.0%	100.0%	
職業ハタチンの %	272	96	44	412		
合計	職業ハタチンの %	66.0%	23.3%	10.7%	100.0%	
男性	職業ハタチン	30	10	1	41	
	女性フルタイム	73.2%	24.4%	2.4%	100.0%	
	職業ハタチンの %	43	7	1	51	
	女性非正規	84.3%	13.7%	2.0%	100.0%	
	職業ハタチンの %	50	12	0	62	
	専業主婦	80.6%	19.4%	.0%	100.0%	
	職業ハタチンの %	28	7	3	38	
	未婚フルタイム	73.7%	18.4%	7.9%	100.0%	
	職業ハタチンの %	9	3	1	13	
	未婚非正規	69.2%	23.1%	7.7%	100.0%	
職業ハタチンの %	160	39	6	205		
合計	職業ハタチンの %	78.0%	19.0%	2.9%	100.0%	
合計	職業ハタチン	70	43	5	118	
	女性フルタイム	59.3%	36.4%	4.2%	100.0%	
	職業ハタチンの %	118	35	24	177	
	女性非正規	66.7%	19.8%	13.6%	100.0%	
	職業ハタチンの %	165	32	17	214	
	専業主婦	77.1%	15.0%	7.9%	100.0%	
	職業ハタチンの %	54	17	3	74	
	未婚フルタイム	73.0%	23.0%	4.1%	100.0%	
	職業ハタチンの %	25	8	1	34	
	未婚非正規	73.5%	23.5%	2.9%	100.0%	
職業ハタチンの %	432	135	50	617		
合計	職業ハタチンの %	70.0%	21.9%	8.1%	100.0%	

性別		問8)時間満足【平日】：掃除と性別のクロス表		問8)時間満足【休日】：掃除		合計
		現状に満足	増やしたい	減らしたい	減らさない	
女性	職業ハタチン	44	15	12	71	
	女性フルタイム	62.0%	21.1%	16.9%	100.0%	
	職業ハタチンの %	83	13	26	122	
	女性非正規	66.0%	10.7%	21.3%	100.0%	
	職業ハタチンの %	105	15	15	135	
	専業主婦	77.8%	11.1%	11.1%	100.0%	
	職業ハタチンの %	31	7	4	42	
	未婚フルタイム	73.8%	16.7%	9.5%	100.0%	
	職業ハタチンの %	20	4	0	24	
	未婚非正規	83.3%	16.7%	.0%	100.0%	
職業ハタチンの %	283	54	57	394		
合計	職業ハタチンの %	71.8%	13.7%	14.5%	100.0%	
男性	職業ハタチン	33	7	3	43	
	女性フルタイム	76.7%	16.3%	7.0%	100.0%	
	職業ハタチンの %	45	5	2	52	
	女性非正規	86.5%	9.6%	3.8%	100.0%	
	職業ハタチンの %	52	12	2	66	
	専業主婦	78.8%	18.2%	3.0%	100.0%	
	職業ハタチンの %	31	6	4	41	
	未婚フルタイム	75.6%	14.6%	9.8%	100.0%	
	職業ハタチンの %	11	2	0	13	
	未婚非正規	84.6%	15.4%	.0%	100.0%	
職業ハタチンの %	172	32	11	215		
合計	職業ハタチンの %	80.0%	14.9%	5.1%	100.0%	
合計	職業ハタチン	77	22	15	114	
	女性フルタイム	67.5%	19.3%	13.2%	100.0%	
	職業ハタチンの %	128	18	28	174	
	女性非正規	73.6%	10.3%	16.1%	100.0%	
	職業ハタチンの %	157	27	17	201	
	専業主婦	78.1%	13.4%	8.5%	100.0%	
	職業ハタチンの %	62	13	8	83	
	未婚フルタイム	74.7%	15.7%	9.6%	100.0%	
	職業ハタチンの %	31	6	0	37	
	未婚非正規	83.8%	16.2%	.0%	100.0%	
職業ハタチンの %	455	86	68	609		
合計	職業ハタチンの %	74.7%	14.1%	11.2%	100.0%	

問8)生活時間満足：子育て・教育

職業パターンと 問8)時間満足【平日】：子育て・教育（入浴・おむつ交換・遊び相手・家庭学習の世話など）と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 度数	女性非正規 度数	専業主婦 度数	未婚フルタイム 度数	未婚非正規 度数	問8)時間満足【平日】：子育て・教育（入浴・おむつ交換・遊び相手・家庭学習の世話など）		合計
							現状に満足	増やしたい	
女性	職業パターンの%	28	24	1	53	52.8%	45.3%	1.9%	100.0%
	度数	62	24	12	98	63.3%	24.5%	12.2%	100.0%
	職業パターンの%	65	11	26	102	63.7%	10.8%	25.5%	100.0%
	度数	29	2	0	31	93.5%	6.5%	.0%	100.0%
	職業パターンの%	16	1	0	17	94.1%	5.9%	.0%	100.0%
	度数	200	62	39	301	66.4%	20.6%	13.0%	100.0%
男性	職業パターンの%	25	11	36	72	69.4%	30.6%	0	100.0%
	度数	33	12	45	90	73.3%	26.7%	0	100.0%
	職業パターンの%	28	31	59	118	47.5%	52.5%	0	100.0%
	度数	29	4	33	66	87.9%	12.1%	0	100.0%
	職業パターンの%	11	0	11	22	100.0%	0.0%	0	100.0%
	度数	126	58	184	370	68.5%	31.5%	0	100.0%
合計	職業パターンの%	53	35	89	177	59.6%	39.3%	1.1%	100.0%
	度数	95	36	143	274	66.4%	25.2%	8.4%	100.0%
	職業パターンの%	93	42	161	236	57.8%	26.1%	16.1%	100.0%
	度数	58	6	64	122	90.6%	9.4%	.0%	100.0%
	職業パターンの%	27	1	28	56	96.4%	3.6%	.0%	100.0%
	度数	326	120	485	931	67.2%	24.7%	8.0%	100.0%

職業パターンと 問8)時間満足【休日】：子育て・教育（入浴・おむつ交換・遊び相手・家庭学習の世話など）と性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 度数	女性非正規 度数	専業主婦 度数	未婚フルタイム 度数	未婚非正規 度数	問8)時間満足【休日】：子育て・教育（入浴・おむつ交換・遊び相手・家庭学習の世話など）		合計
							現状に満足	増やしたい	
女性	職業パターンの%	36	10	2	48	75.0%	20.8%	4.2%	100.0%
	度数	69	19	9	97	71.1%	19.6%	9.3%	100.0%
	職業パターンの%	64	9	23	96	66.7%	9.4%	24.0%	100.0%
	度数	27	2	0	29	93.1%	6.9%	.0%	100.0%
	職業パターンの%	16	1	0	17	94.1%	5.9%	.0%	100.0%
	度数	212	41	34	287	73.9%	14.3%	11.8%	100.0%
男性	職業パターンの%	26	10	36	72	72.2%	27.8%	0	100.0%
	度数	37	7	44	88	84.1%	15.9%	0	100.0%
	職業パターンの%	36	24	60	120	60.0%	40.0%	0	100.0%
	度数	29	4	33	66	87.9%	12.1%	0	100.0%
	職業パターンの%	10	0	10	20	100.0%	.0%	0	100.0%
	度数	138	45	183	366	75.4%	24.6%	0	100.0%
合計	職業パターンの%	62	20	84	166	73.8%	23.8%	2.4%	100.0%
	度数	106	26	141	273	75.2%	18.4%	6.4%	100.0%
	職業パターンの%	100	33	156	333	64.1%	21.2%	14.7%	100.0%
	度数	56	6	62	114	90.3%	9.7%	.0%	100.0%
	職業パターンの%	26	1	27	54	96.3%	3.7%	.0%	100.0%
	度数	350	86	470	906	74.5%	18.3%	7.2%	100.0%

問8)生活時間満足：自分の時間

職業パターンと問8)時間満足【平日】：自分の時間（趣味・教養・友人等との交流など）と性別のクロス表		問8)時間満足【平日】：自分の時間（趣味・教養・友人等との交流など）				合計
性別	職業パターン	女性フルタイム 職業パターンの% 度数	現状に満足		減らしたい	
			増やしたい	減らしたい	増やしたい	減らしたい
女性	職業パターン	女性フルタイム	21	49	1	71
		職業パターンの%	29.6%	69.0%	1.4%	100.0%
		度数	47	70	2	119
	女性非正規	職業パターンの%	39.5%	58.8%	1.7%	100.0%
		度数	65	75	0	140
		職業パターンの%	46.4%	53.6%	0.0%	100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	18	24	0	42
		職業パターンの%	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	7	15	0	22
		職業パターンの%	31.8%	68.2%	0.0%	100.0%
合計		度数	158	233	3	394
		職業パターンの%	40.1%	59.1%	0.8%	100.0%
男性	職業パターン	女性フルタイム	21	26		47
		職業パターンの%	44.7%	55.3%		100.0%
		度数	35	26		61
	女性非正規	職業パターンの%	57.4%	42.6%		100.0%
		度数	25	44		69
		職業パターンの%	36.2%	63.8%		100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	21	20		41
		職業パターンの%	51.2%	48.8%		100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	8	4		12
		職業パターンの%	66.7%	33.3%		100.0%
合計		度数	110	120		230
		職業パターンの%	47.8%	52.2%		100.0%
合計	職業パターン	女性フルタイム	42	75	1	118
		職業パターンの%	35.6%	63.6%	0.8%	100.0%
		度数	82	96	2	180
	女性非正規	職業パターンの%	45.6%	53.3%	1.1%	100.0%
		度数	90	119	0	209
		職業パターンの%	43.1%	56.9%	0.0%	100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	39	44	0	83
		職業パターンの%	47.0%	53.0%	0.0%	100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	15	19	0	34
		職業パターンの%	44.1%	55.9%	0.0%	100.0%
合計		度数	268	353	3	624
		職業パターンの%	42.9%	56.6%	0.5%	100.0%

職業パターンと問8)時間満足【休日】：自分の時間（趣味・教養・友人等との交流など）と性別のクロス表		問8)時間満足【休日】：自分の時間（趣味・教養・友人等との交流など）				合計
性別	職業パターン	女性フルタイム 職業パターンの% 度数	現状に満足		減らしたい	
			増やしたい	減らしたい	増やしたい	減らしたい
女性	職業パターン	女性フルタイム	28	37	0	65
		職業パターンの%	43.1%	56.9%	0.0%	100.0%
		度数	56	58	1	115
	女性非正規	職業パターンの%	48.7%	50.4%	0.9%	100.0%
		度数	63	64	0	127
		職業パターンの%	49.6%	50.4%	0.0%	100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	31	12	0	43
		職業パターンの%	72.1%	27.9%	0.0%	100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	12	9	0	21
		職業パターンの%	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
合計		度数	190	180	1	371
		職業パターンの%	51.2%	48.5%	0.3%	100.0%
男性	職業パターン	女性フルタイム	27	21	1	49
		職業パターンの%	55.1%	42.9%	2.0%	100.0%
		度数	40	17	0	57
	女性非正規	職業パターンの%	70.2%	29.8%	0.0%	100.0%
		度数	37	37	1	75
		職業パターンの%	49.3%	49.3%	1.3%	100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	34	7	0	41
		職業パターンの%	82.9%	17.1%	0.0%	100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	9	2	0	11
		職業パターンの%	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
合計		度数	147	84	2	233
		職業パターンの%	63.1%	36.1%	0.9%	100.0%
合計	職業パターン	女性フルタイム	55	58	1	114
		職業パターンの%	48.2%	50.9%	0.9%	100.0%
		度数	96	75	1	172
	女性非正規	職業パターンの%	55.8%	43.6%	0.6%	100.0%
		度数	100	101	1	202
		職業パターンの%	49.5%	50.0%	0.5%	100.0%
	未婚フルタイム	職業パターンの%	65	19	0	84
		職業パターンの%	77.4%	22.6%	0.0%	100.0%
	未婚非正規	職業パターンの%	21	11	0	32
		職業パターンの%	65.6%	34.4%	0.0%	100.0%
合計		度数	337	264	3	604
		職業パターンの%	55.8%	43.7%	0.5%	100.0%

問8)生活時間満足：家族との団らん

職業パターンと問8)時間満足【平日】：家族との団らんと性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 女性非正規 専業主婦 未婚フルタイム 未婚非正規	度数	職業パターンの %	問8)時間満足【平日】：家族との団らん			合計
					現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業パターン	女性フルタイム	32	42.1%	44	57.9%	0	76
		女性非正規	71	55.0%	57	44.2%	1	129
		専業主婦	87	60.8%	55	38.5%	1	143
		未婚フルタイム	21	61.8%	13	38.2%	0	34
		未婚非正規	18	78.3%	5	21.7%	0	23
	合計		229	56.5%	174	43.0%	2	405
男性	職業パターン	女性フルタイム	26	55.3%	21	44.7%	0	47
		女性非正規	26	45.6%	31	54.4%	0	57
		専業主婦	37	51.4%	35	48.6%	0	72
		未婚フルタイム	25	71.4%	10	28.6%	0	35
		未婚非正規	6	46.2%	6	46.2%	1	13
	合計		120	53.6%	103	46.0%	1	224
合計	職業パターン	女性フルタイム	58	47.2%	65	52.8%	0	123
		女性非正規	97	52.2%	88	47.3%	1	186
		専業主婦	124	57.7%	90	41.9%	1	215
		未婚フルタイム	46	66.7%	23	33.3%	0	69
		未婚非正規	24	66.7%	11	30.6%	1	36
	合計		349	55.5%	277	44.0%	3	629

職業パターンと問8)時間満足【休日】：家族との団らんと性別のクロス表

性別	職業パターン	女性フルタイム 女性非正規 専業主婦 未婚フルタイム 未婚非正規	度数	職業パターンの %	問8)時間満足【休日】：家族との団らん			合計
					現状に満足	増やしたい	減らしたい	
女性	職業パターン	女性フルタイム	46	63.0%	27	37.0%	0	73
		女性非正規	84	67.7%	39	31.5%	1	124
		専業主婦	106	79.1%	27	20.1%	1	134
		未婚フルタイム	25	69.4%	11	30.6%	0	36
		未婚非正規	18	78.3%	4	17.4%	1	23
	合計		279	71.5%	108	27.7%	3	390
男性	職業パターン	女性フルタイム	34	72.3%	13	27.7%		47
		女性非正規	40	70.2%	17	29.8%		57
		専業主婦	45	61.6%	28	38.4%		73
		未婚フルタイム	26	76.5%	8	23.5%		34
		未婚非正規	10	83.3%	2	16.7%		12
	合計		155	69.5%	68	30.5%		223
合計	職業パターン	女性フルタイム	80	66.7%	40	33.3%	0	120
		女性非正規	124	68.5%	56	30.9%	1	181
		専業主婦	151	72.9%	55	26.6%	1	207
		未婚フルタイム	51	72.9%	19	27.1%	0	70
		未婚非正規	28	80.0%	6	17.1%	1	35
	合計		434	70.8%	176	28.7%	3	613

問12)ア 結婚は個人の自由

問12：結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいと職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターン										職業パターンの%				
	職業パターン					合計	職業パターン					合計			
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規				
女性	46	68	79	33	14	240	51.1%	47.9%	47.3%	66.0%	56.0%	50.6%			
	21	45	59	14	7	146	23.3%	31.7%	35.3%	28.0%	28.0%	30.8%			
	17	25	22	2	3	69	18.9%	17.6%	13.2%	4.0%	12.0%	14.6%			
	6	4	7	1	1	19	6.7%	2.8%	4.2%	2.0%	4.0%	4.0%			
合計	90	142	167	50	25	474	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
男性	16	33	19	33	8	109	26.7%	48.5%	21.1%	60.0%	57.1%	38.0%			
	22	16	30	15	5	88	36.7%	23.5%	33.3%	27.3%	35.7%	30.7%			
	16	14	35	6	1	72	26.7%	20.6%	38.9%	10.9%	7.1%	25.1%			
	6	5	6	1	0	18	10.0%	7.4%	6.7%	1.8%	.0%	6.3%			
合計	60	68	90	55	14	287	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
合計	62	101	98	66	22	349	41.3%	48.1%	38.1%	62.9%	56.4%	45.9%			
	43	61	89	29	12	234	28.7%	29.0%	34.6%	27.6%	30.8%	30.7%			
	33	39	57	8	4	141	22.0%	18.6%	22.2%	7.6%	10.3%	18.5%			
	12	9	13	2	1	37	8.0%	4.3%	5.1%	1.9%	2.6%	4.9%			
合計	150	210	257	105	39	761	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

問12)イ 子供を持つ必要

問12：結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないと職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターンの %											
	職業パターン					合計	職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	38	48	57	23	11	177	42.2%	34.0%	34.3%	46.0%	44.0%	37.5%
	23	38	50	16	9	136	25.6%	27.0%	30.1%	32.0%	36.0%	28.8%
	23	45	50	8	3	129	25.6%	31.9%	30.1%	16.0%	12.0%	27.3%
反対	6	10	9	3	2	30	6.7%	7.1%	5.4%	6.0%	8.0%	6.4%
合計	90	141	166	50	25	472	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	15	21	14	21	3	74	25.0%	30.9%	15.6%	40.4%	21.4%	26.1%
	12	18	23	15	10	78	20.0%	26.5%	25.6%	28.8%	71.4%	27.5%
	26	24	37	13	1	101	43.3%	35.3%	41.1%	25.0%	7.1%	35.6%
反対	7	5	16	3	0	31	11.7%	7.4%	17.8%	5.8%	.0%	10.9%
合計	60	68	90	52	14	284	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
賛成	53	69	71	44	14	251	35.3%	33.0%	27.7%	43.1%	35.9%	33.2%
	35	56	73	31	19	214	23.3%	26.8%	28.5%	30.4%	48.7%	28.3%
	49	69	87	21	4	230	32.7%	33.0%	34.0%	20.6%	10.3%	30.4%
反対	13	15	25	6	2	61	8.7%	7.2%	9.8%	5.9%	5.1%	8.1%
合計	150	209	256	102	39	756	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問12)ウ 相手に満足できなければ離婚

問12：結婚しても相手に満足できなときは離婚すればよいと職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターン										職業パターンの %				
	職業パターン					合計	職業パターン					合計			
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規				
女性	賛成	26	38	48	17	6	135	28.9%	27.1%	28.7%	33.3%	24.0%	28.5%		
	どちらかといえば賛成	35	58	62	22	10	187	38.9%	41.4%	37.1%	43.1%	40.0%	39.5%		
	どちらかといえば反対	21	37	47	7	7	119	23.3%	26.4%	28.1%	13.7%	28.0%	25.2%		
	反対	8	7	10	5	2	32	8.9%	5.0%	6.0%	9.8%	8.0%	6.8%		
	合計	90	140	167	51	25	473	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
男性	賛成	14	19	13	11	3	60	23.7%	28.8%	14.4%	21.2%	21.4%	21.4%		
	どちらかといえば賛成	16	25	46	19	5	111	27.1%	37.9%	51.1%	36.5%	35.7%	39.5%		
	どちらかといえば反対	24	19	24	18	4	89	40.7%	28.8%	26.7%	34.6%	28.6%	31.7%		
	反対	5	3	7	4	2	21	8.5%	4.5%	7.8%	7.7%	14.3%	7.5%		
	合計	59	66	90	52	14	281	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
合計	賛成	40	57	61	28	9	195	26.8%	27.7%	23.7%	27.2%	23.1%	25.9%		
	どちらかといえば賛成	51	83	108	41	15	298	34.2%	40.3%	42.0%	39.8%	38.5%	39.5%		
	どちらかといえば反対	45	56	71	25	11	208	30.2%	27.2%	27.6%	24.3%	28.2%	27.6%		
	反対	13	10	17	9	4	53	8.7%	4.9%	6.6%	8.7%	10.3%	7.0%		
	合計	149	206	257	103	39	754	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

問13)ア 女性は勤務時間を選べる仕事

問13：女性の仕事は、収入が少なくても、勤務時間の選べる仕事が増えたと職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターンの%											
	職業パターン					合計	職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	14	46	59	8	3	130	15.7%	32.2%	35.5%	15.7%	12.0%	27.4%
	37	58	70	18	9	192	41.6%	40.6%	42.2%	35.3%	36.0%	40.5%
	28	27	25	13	7	100	31.5%	18.9%	15.1%	25.5%	28.0%	21.1%
	10	12	12	12	6	52	11.2%	8.4%	7.2%	23.5%	24.0%	11.0%
合計	89	143	166	51	25	474	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	15	21	33	15	2	86	24.6%	30.9%	36.7%	27.3%	14.3%	29.9%
	19	25	30	20	7	101	31.1%	36.8%	33.3%	36.4%	50.0%	35.1%
	19	15	22	16	5	77	31.1%	22.1%	24.4%	29.1%	35.7%	26.7%
	8	7	5	4	0	24	13.1%	10.3%	5.6%	7.3%	.0%	8.3%
合計	61	68	90	55	14	288	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	29	67	92	23	5	216	19.3%	31.8%	35.9%	21.7%	12.8%	28.3%
	56	83	100	38	16	293	37.3%	39.3%	39.1%	35.8%	41.0%	38.5%
	47	42	47	29	12	177	31.3%	19.9%	18.4%	27.4%	30.8%	23.2%
	18	19	17	16	6	76	12.0%	9.0%	6.6%	15.1%	15.4%	10.0%
合計	150	211	256	106	39	762	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問13)イ 男は家族を養う責任

問13：家族を養うのは、男の責任であると職業パターンと性別のクロス表

性別	度数						職業パターンの%					
	職業パターン						職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計
女性	そう思う	12	44	46	7	7	13.5%	31.2%	27.7%	14.0%	28.0%	24.6%
	ややそう思う	22	56	69	7	7	24.7%	39.7%	41.6%	42.0%	28.0%	37.2%
	あまりそう思わない	36	27	39	5	5	40.4%	19.1%	23.5%	22.0%	20.0%	25.1%
	そう思わない	19	14	12	6	6	21.3%	9.9%	7.2%	22.0%	24.0%	13.2%
	合計	89	141	166	50	25	471	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	そう思う	17	32	41	6	6	28.3%	47.1%	45.6%	24.5%	42.9%	38.2%
	ややそう思う	22	19	36	5	5	36.7%	27.9%	40.0%	52.8%	35.7%	38.6%
	あまりそう思わない	13	9	10	3	3	21.7%	13.2%	11.1%	11.3%	21.4%	14.4%
	そう思わない	8	8	3	6	0	13.3%	11.8%	3.3%	11.3%	.0%	8.8%
	合計	60	68	90	53	14	285	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	そう思う	29	76	87	13	13	19.5%	36.4%	34.0%	19.4%	33.3%	29.8%
	ややそう思う	44	75	105	12	12	29.5%	35.9%	41.0%	47.6%	30.8%	37.7%
	あまりそう思わない	49	36	49	8	8	32.9%	17.2%	19.1%	16.5%	20.5%	21.0%
	そう思わない	27	22	15	17	6	18.1%	10.5%	5.9%	16.5%	15.4%	11.5%
	合計	149	209	256	103	39	756	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問13)ウ 男は外、女は家庭

問13：男は外で働き、女は家庭を守るのが望ましいと職業パターンと性別のクロス表

性別	度数						職業パターンの%					
	職業パターン						職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	合計
女性	そう思う	6	9	20	2	4	41	6.7%	6.4%	12.0%	4.0%	8.7%
	ややそう思う	12	42	63	14	6	137	13.3%	29.8%	38.0%	28.0%	29.0%
	あまりそう思わない	37	56	57	19	8	177	41.1%	39.7%	34.3%	38.0%	37.5%
	そう思わない	35	34	26	15	7	117	38.9%	24.1%	15.7%	30.0%	24.8%
	合計	90	141	166	50	25	472	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	そう思う	9	11	18	6	6	50	15.0%	16.2%	19.8%	11.3%	17.5%
	ややそう思う	12	19	36	19	3	89	20.0%	27.9%	39.6%	35.8%	31.1%
	あまりそう思わない	22	27	28	17	3	97	36.7%	39.7%	30.8%	32.1%	33.9%
	そう思わない	17	11	9	11	2	50	28.3%	16.2%	9.9%	20.8%	17.5%
	合計	60	68	91	53	14	286	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	そう思う	15	20	38	8	10	91	10.0%	9.6%	14.8%	7.8%	12.0%
	ややそう思う	24	61	99	33	9	226	16.0%	29.2%	38.5%	32.0%	29.8%
	あまりそう思わない	59	83	85	36	11	274	39.3%	39.7%	33.1%	35.0%	36.1%
	そう思わない	52	45	35	26	9	167	34.7%	21.5%	13.6%	25.2%	22.0%
	合計	150	209	257	103	39	758	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問14)望ましい夫婦形態

問14：収入や福利厚生が同じであるとしたら望ましい夫婦形態と職業パターンと性別のクロス表

性別	職業パターンの%											
	職業パターン					合計	職業パターン					
	女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規		女性フルタイム	女性非正規	専業主婦	未婚フルタイム	未婚非正規	
女性	56	65	84	28	13	246	62.2%	45.5%	51.9%	54.9%	56.5%	52.5%
	34	78	78	23	10	223	37.8%	54.5%	48.1%	45.1%	43.5%	47.5%
合計	90	143	162	51	23	469	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性	29	28	30	26	9	122	47.5%	40.0%	33.3%	47.3%	64.3%	42.1%
	31	42	60	29	5	167	50.8%	60.0%	66.7%	52.7%	35.7%	57.6%
合計	1	0	0	0	0	1	1.6%	.0%	.0%	.0%	.0%	.3%
合計	61	70	90	55	14	290	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	85	93	114	54	22	368	56.3%	43.7%	45.2%	50.9%	59.5%	48.5%
	65	120	138	52	15	390	43.0%	56.3%	54.8%	49.1%	40.5%	51.4%
合計	1	0	0	0	0	1	.7%	.0%	.0%	.0%	.0%	.1%
合計	151	213	252	106	37	759	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%